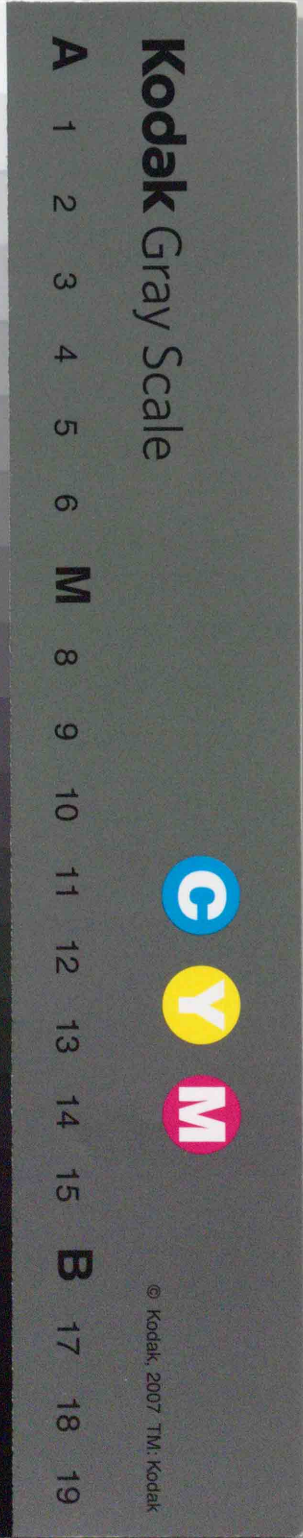
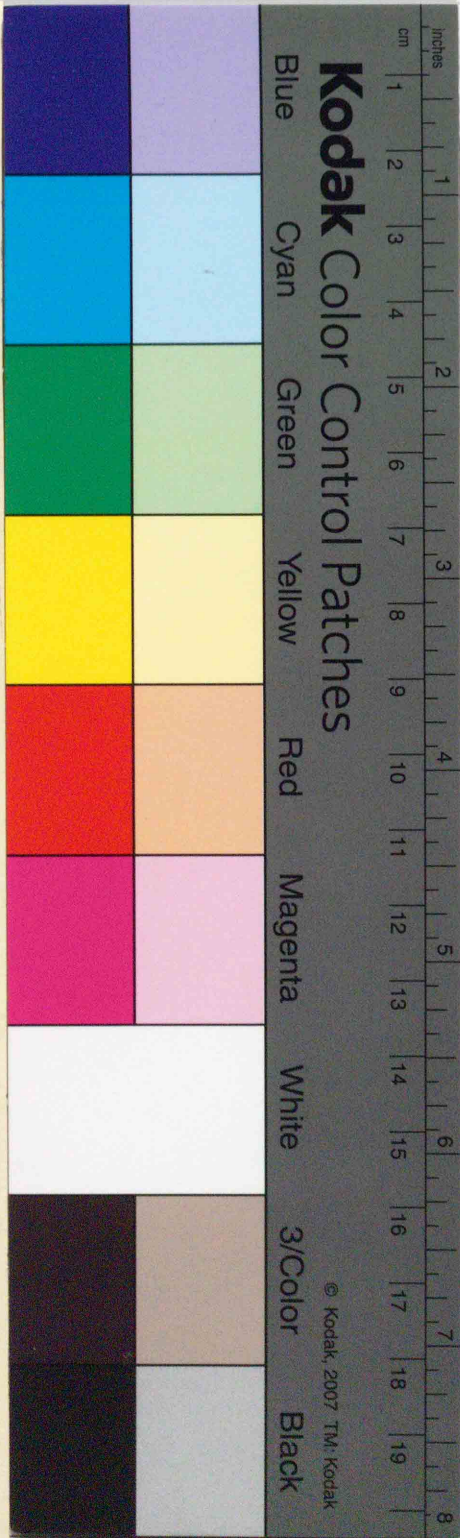


40690

教科書文庫

4
710
41-1921
200030 2425



375.9
Ok1

資料室



P

主 旨

圖畫教育は眼と手との練習、及び物體を正確に描く、語を換えて謂へば寫生本位の圖畫教育でなければならぬといふ時代ではあるまい。勿謂是等の事が圖畫教育の手段には相違ないが、更に進んで生徒の創造力を喚起せしめ、趣味を解せしめ、傍ら鑑賞力を養ふこと、夫れと個性を發揮せしめねばならぬといふことの喧傳せらるゝ様になつたのは圖畫教育の一進歩で、是れが吾人の本旨でありまた本書編纂の骨子である。

本書は畫材に對して相互に關聯した事物の表現の方法と、其應用工夫の作例を多く示した、随つて生徒の個性に適合した手法を選ぶの自由と、地理上適當の題材を選ぶに困難な場合に備へた。本書は臨畫は避けたい。随つて模倣を避けるといふことは謂ふまでもなく唯作例或は説明の材料である。

圖畫用具の繁雜を避けて描法を容易ならしめる爲めに、最も手近かの用具で描き得る鉛筆畫、ペン畫、水彩畫に限る事とした、殊にペンの使用は近年益々多くなつた爲め殊更にペン畫の作例を多く挿入してある。

從來多く行はれた幾何形體の題材は生徒の身邊で自由に得らるゝ故、是等は成る可く寫生時間の説明に譲り、主に趣味あり且つ輪廓の不規則なるものを多く撰んだ。

是迄多く見る平滑的な手法の畫は、徒らに時間を費すのと、趣味を沒却した傾きがある。依つて本書は成るべく概括的に、無遠慮に且つ澁滯することなく、自由に筆を運ばすの習慣を養ふ目的で、殊更に奇麗に描いた畫は絶対に之れをさけた。

日本の圖畫教育は、日本に適應したもので無ければならぬ、随つて徒らに歐米の直譯的な態度を採らぬ、尤も彼の新しい長所を參酌した事は勿論である。

本書は生徒の携帶に便ならしめる爲めに製本を小型にした、之れが爲めに生徒に描かしむる畫を小さくするといふ旨意で無いことを諒解されたい。

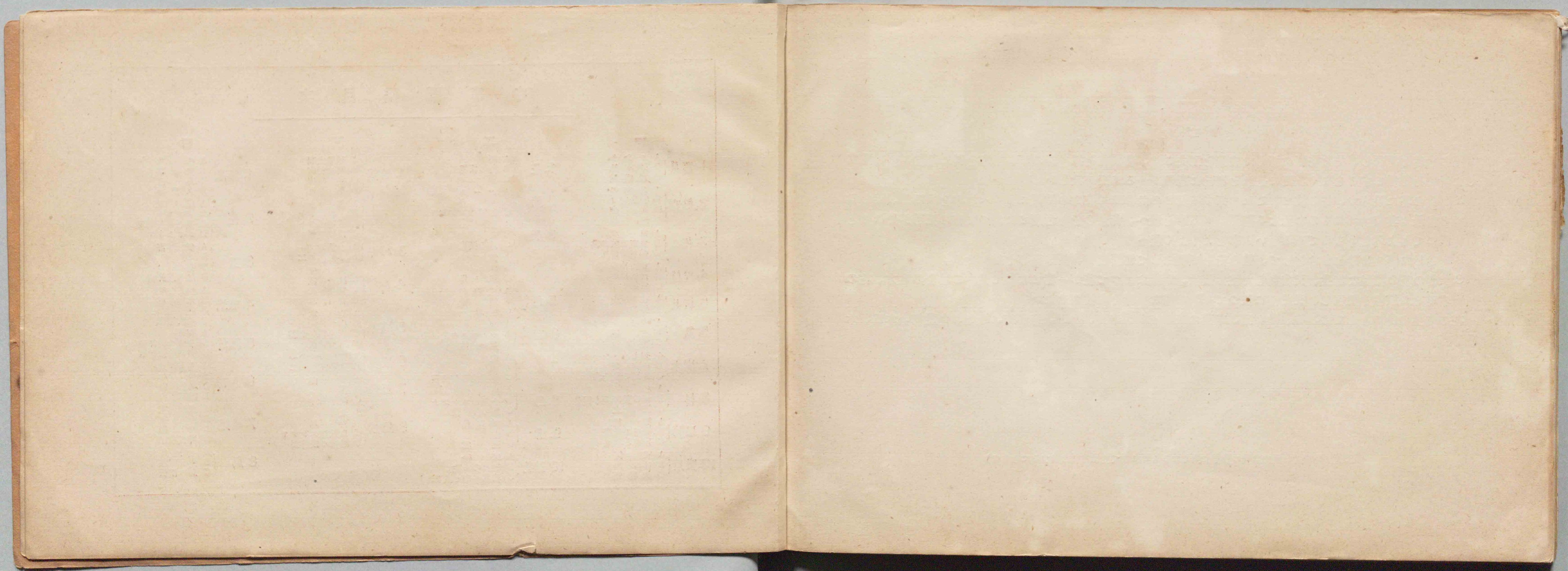
大正十年十月

著 者 識



中等圖書目次

一	二	三	四
1. 器具 { A 鉢 B 木目鏡 C 彩色表 D 洗面器	1. 花 { A 椿の模様 B 櫻の模様 C 一舟のスケッチ	1. 建築 { A 伊勢大廟 B 明神宮 C 龍水山原 D 顔のスケッチ	1. 風景 { A 李花 B 眺鳥原 C 久里濱 D 草
2. 色彩 { A 墨洗 B 墨洗 C 墨洗 D 墨洗	2. 船 { A 漁船のスケッチ B 漁船のスケッチ C 漁船のスケッチ D 漁船のスケッチ	2. 人物 { A 人物のスケッチ B 人物のスケッチ C 人物のスケッチ D 人物のスケッチ	2. 花 { A 櫻花の裝飾畫 B 櫻花の裝飾畫 C 櫻花の裝飾畫 D 櫻花の裝飾畫
3. 花 { A 粟の模様 B 粟の模様 C 粟の模様 D 粟の模様	3. 蟲 { A 蠶の模様 B 蠶の模様 C 蠶の模様 D 蠶の模様	3. 小圖按 { A 小圖按の二 B 小圖按の二 C 小圖按の二 D 小圖按の二	3. 雲 { A 雲霞 B 雲霞 C 雲霞 D 雲霞
4. 模様 { A 實物模様 B 自然模様 C 自然模様 D 自然模様	4. 海 { A 海岸の風景 B 海岸の風景 C 海岸の風景 D 海岸の風景	4. 花 { A 睡蓮 B 睡蓮 C 睡蓮 D 睡蓮	4. 風景 { A 煙水橋 B 煙水橋 C 煙水橋 D 煙水橋
5. 玩具 { A 張子の虎 B 張子の虎 C 張子の虎 D 張子の虎	5. 色彩 { A 色彩の統一 B 色彩の統一 C 色彩の統一 D 色彩の統一	5. 植木 { A 樹木の裝飾畫 B 樹木の裝飾畫 C 樹木の裝飾畫 D 樹木の裝飾畫	5. 風景 { A 朝陽の裝飾畫 B 夕陽の裝飾畫 C 夕陽の裝飾畫 D 夕陽の裝飾畫
6. 魚 { A 魚のスケッチ B 魚のスケッチ C 魚のスケッチ D 魚のスケッチ	6. 果物と菜 { A 栗のスケッチ B 栗のスケッチ C 栗のスケッチ D 栗のスケッチ	6. 模様 { A 天然模様 B 天然模様 C 天然模様 D 天然模様	6. 人物 { A 稻荷 B 稻荷 C 稻荷 D 稻荷
7. 樹木 { A 樹木のスケッチ B 樹木のスケッチ C 樹木のスケッチ D 樹木のスケッチ	7. 山 { A 山岳の裝飾畫 B 山岳の裝飾畫 C 山岳の裝飾畫 D 山岳の裝飾畫	7. 風景 { A 石山 B 石山 C 石山 D 石山	7. 建築 { A 家陽家 B 家陽家 C 家陽家 D 家陽家
8. 杉 { A 杉の裝飾畫と模様 B 杉の裝飾畫と模様 C 杉の裝飾畫と模様 D 杉の裝飾畫と模様	8. 鳥 { A 鳥のスケッチ B 鳥のスケッチ C 鳥のスケッチ D 鳥のスケッチ	8. 鳥獸 { A 犬のスケッチ B 犬のスケッチ C 犬のスケッチ D 犬のスケッチ	8. 鳥 { A 鳥の裝飾畫 B 鳥の裝飾畫 C 鳥の裝飾畫 D 鳥の裝飾畫
9. 果物 { A 蜜柑の模様 B 蜜柑の模様 C 蜜柑の模様 D 蜜柑の模様	9. 雪 { A 雪の風景 B 雪の風景 C 雪の風景 D 雪の風景		
10. 風景 { A 家出湖 B 家出湖 C 家出湖 D 家出湖	10. 器物 { A 玩具の牛と人形 B 玩具の牛と人形 C 玩具の牛と人形 D 玩具の牛と人形		



第一題 花

A 椿 B 椿の模様 C 櫻

花の描寫を練習し、花を花瓶に挿した位置を工夫させ、尙其花を挿す器の形、色等を別に考按させ、描寫した材料を模様とするもよく、更に是れを實物に應用させる時間が欲しい。

A 椿の花に限らず、花の枝と、これを挿す花瓶との釣合即ち安定の位置に置くべき事を説明し、更に畫の背景は其畫かれたものに大なる關係がある事を教へ、背景の色と色調とに依つて畫の死活が分れると謂つてもよろしいものであるといふ事をよくよく教へる。

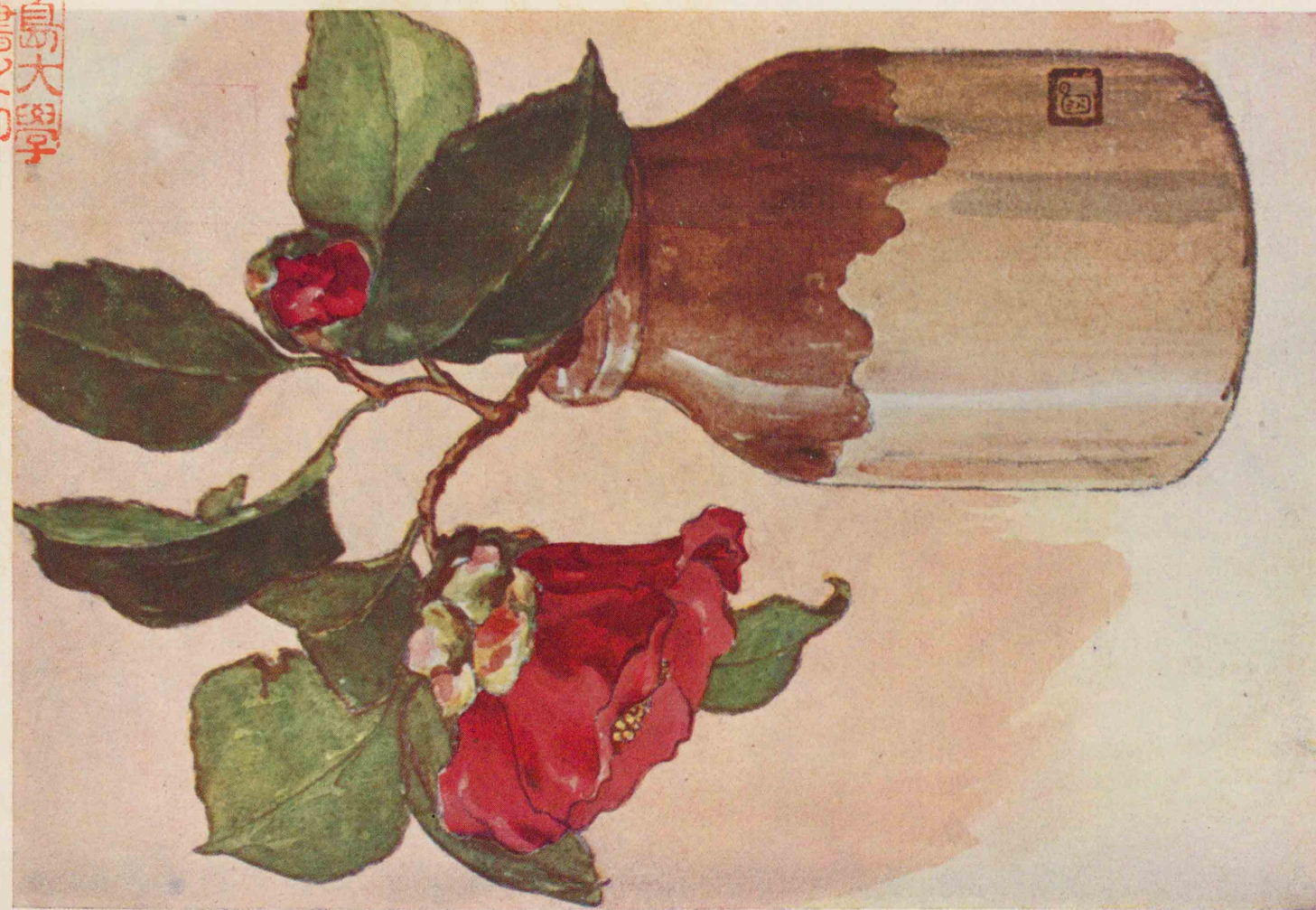
B 示した椿の模様を参考として、他の花を模様化して連続模様、裝飾畫等を畫かせる。

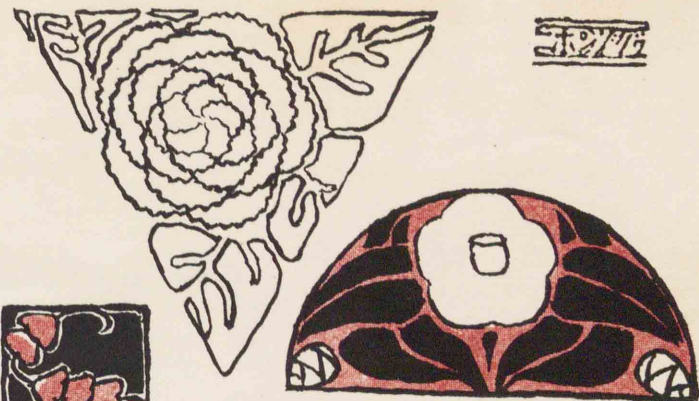
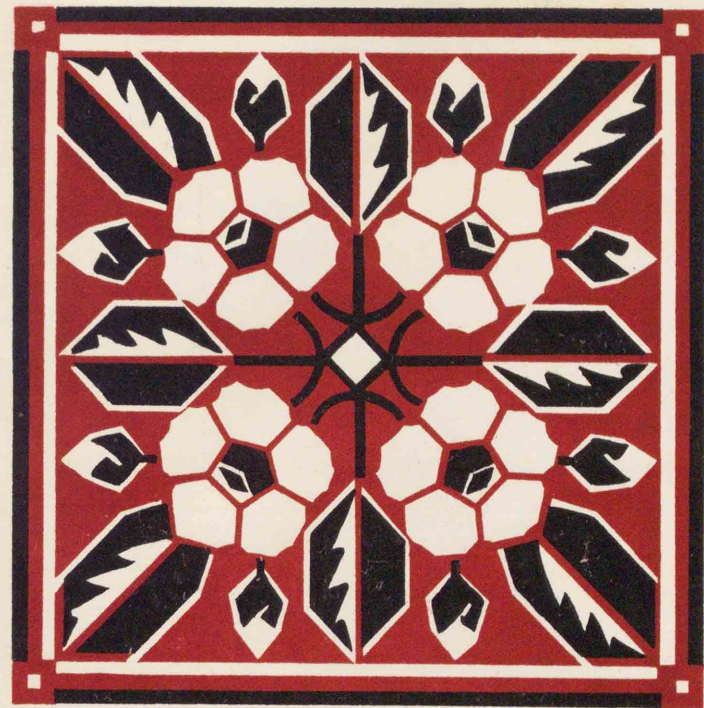
C 櫻の花の細密な寫生、又密集した花の描法、距離によつて花が一團となつて見へる場合の看方、花の省略した描法を説明し、又此櫻に依つて B の様な模様を考按させたい。

花の寫生の材料としては、梅、桃、梨、^{ハクモクレン} 苺菓の花、^{コナン} 玉蘭、^{ツバキ} 辛夷、^{ワウバイ} 躑躅、^{レンギヤウ} 迎春花、^{ボケ} 連翹、^{モク} 金盞花、木瓜、木蘭等。

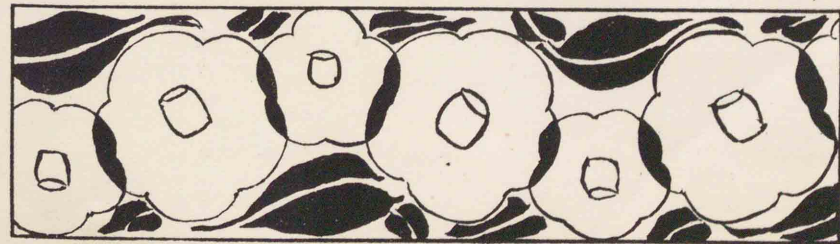
(注意 本紙片は教師諸賢の参考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)

南島大學
圖書印



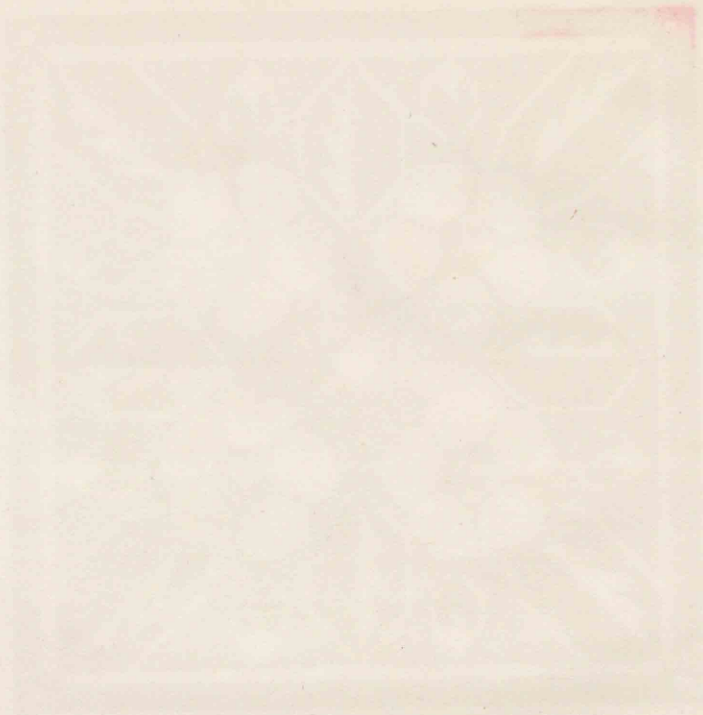


1926



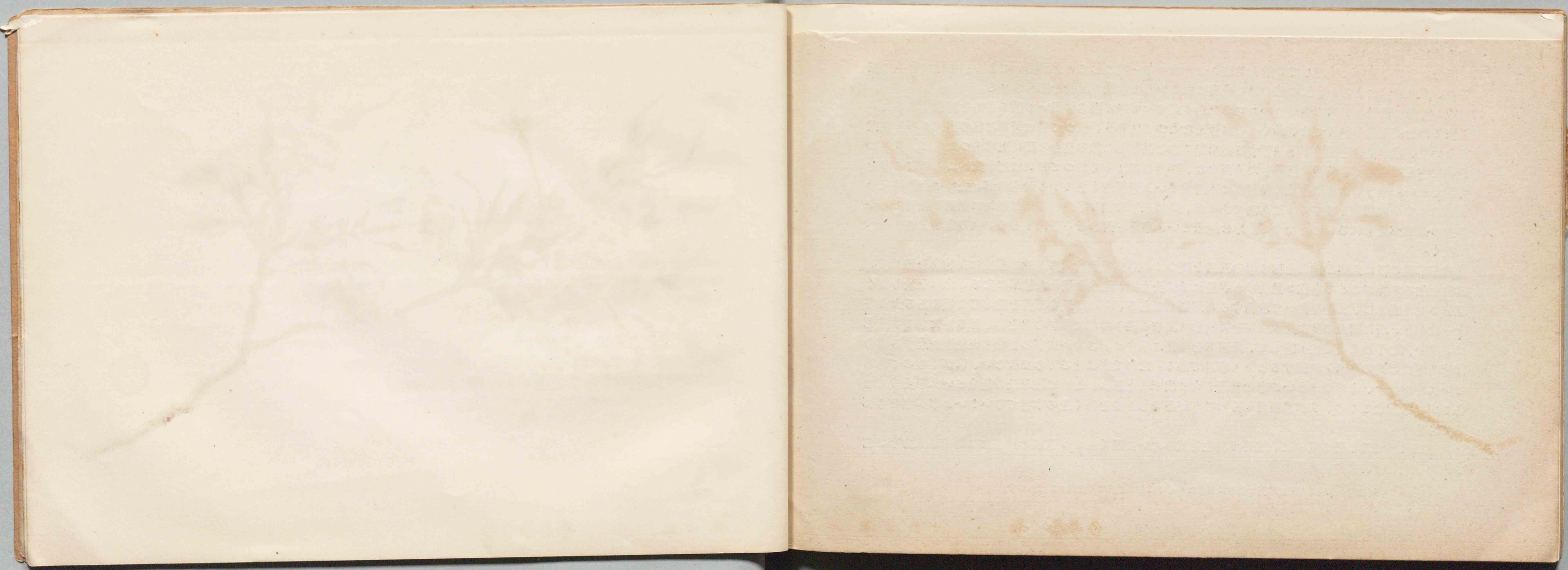
貳. 1. B.





π. 1. C.

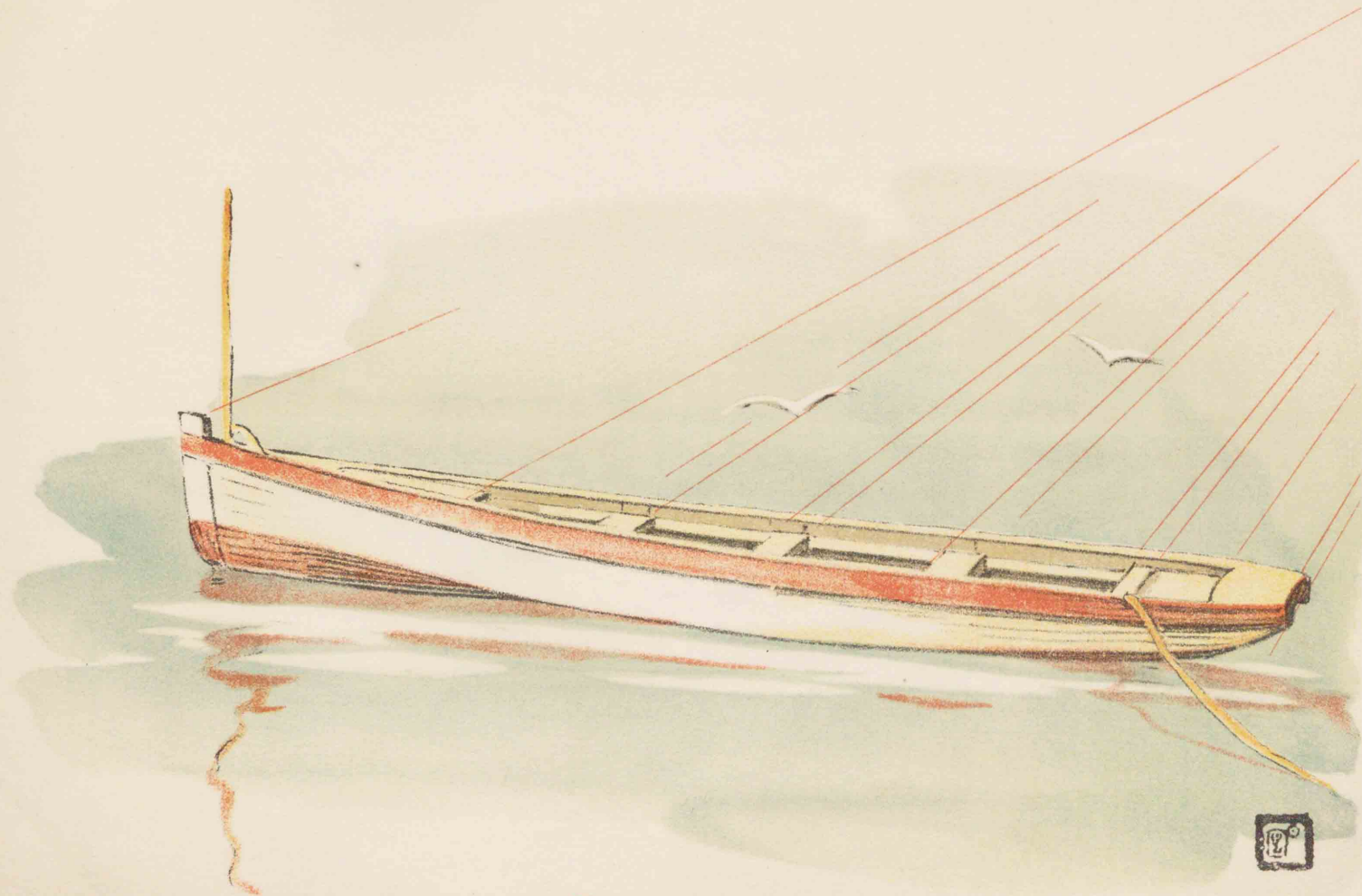




其内を塗るの弊があるのを往々見受ける、是れでは全く畫の趣味を殺した結果になる、之れを最もよく理解させる爲めに、文字を書いて説明するのが便利である、それは最も筆勢を重んじた趣味ある大文字を一枚かき、別に同大の紙に此大文字を籠寫し（出来る限り詳細に輪廓の線を寫し採る）にする、そして、其の内を平たく墨で塗り潰して、此兩者を生徒に示す。さすが文字の趣味の有無を判断する事の出来る事は、畫の趣味を判断するよりも容易である。之れで畫は塗るものではない、畫がくものであるといふ事が分り、畫の趣味といふ事の判断も大に出来ると思ふ。これは唯筆致の趣味といふ事だけではあるが、清潔なるもの、及び眞面目なもののみが必ずしも畫を描く上の本旨でないといふ事が察せられるであらう。

船の寫生は校外で爲し得る限りは、屋外で寫生を試みたい。動くものゝ速寫の練習には馬車、人力車、自轉車、汽車、飛行機、家禽、家畜類等。

（注意 本紙片は教師諸賢の参考に附したるものにして生徒用には附するにあらず）



貳. 2. A.



第二題 船

A ボート B 漁舟 C 船舶のスケッチ

船の輪廓は縦にも横にも彎曲した線で出来て居て、形を採るには甚だ困難なもので、一種の建造物でありながら、直線の最も少い形體である、従つて輪廓をどるに最も注意しないと、船の形をなさないから、輪廓の練習に重きを置く事とした。

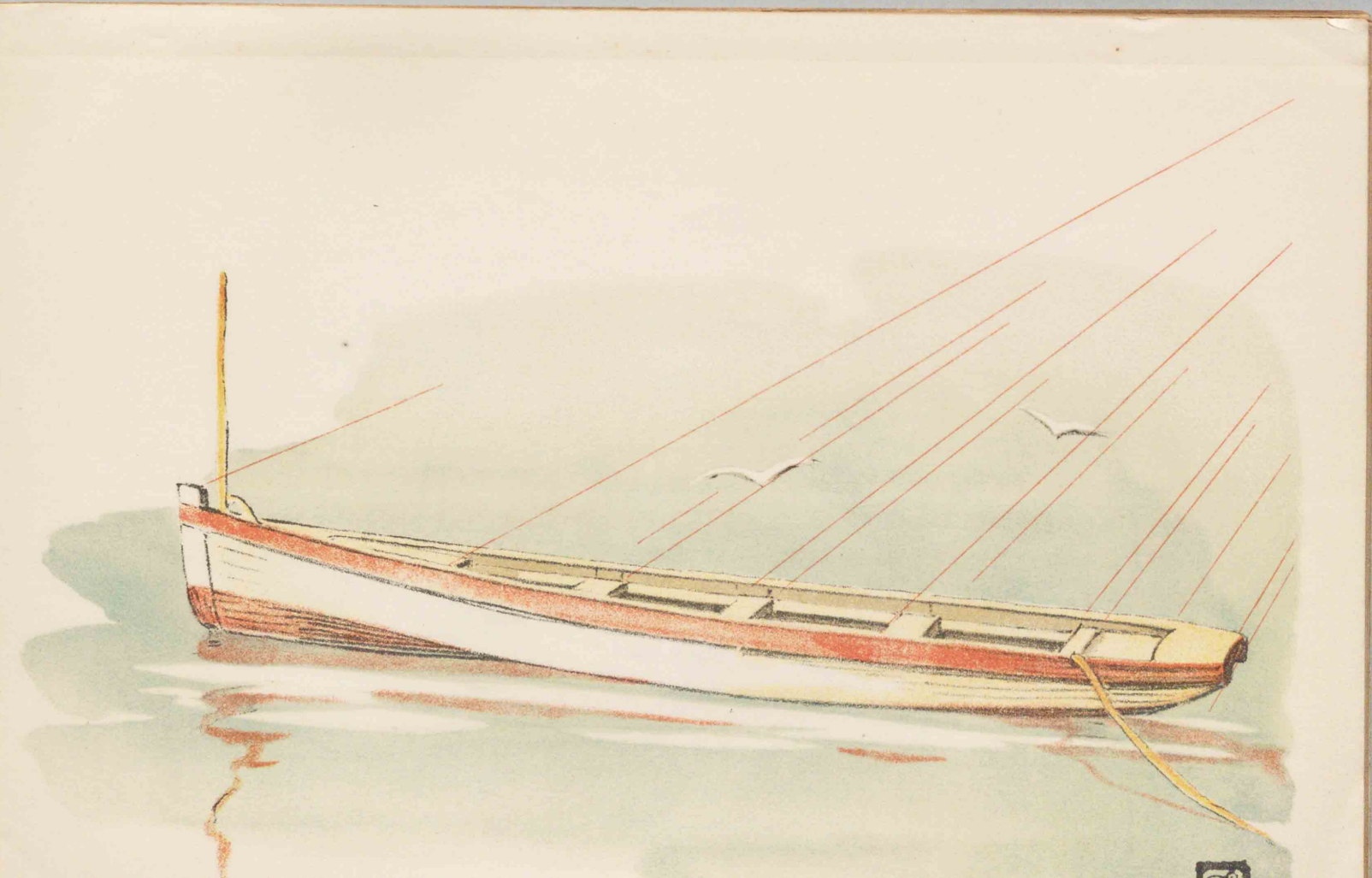
A 船の中の横木が方向の違はぬ様特に注意した。此船を見るものゝ位置と、船の置き方に依つて透視畫法の説明がありがたい。

B 漁舟の位置を畫中に按配して背景を考按させる爲めの一例として朱線が描いてある。生徒は寫生に依るか、或は記憶によるか、又は他の畫の描寫に依るかして背景の風物を添へさせる。

C 或る港内に游動して居る船舶のスケッチである。すべて船に限らず動いて居るものを寫生するのに、教室で畫を描く様な態度では、動くものは皆んな去つて仕舞う、依つて畫に繁雜な線の出来るのを顧慮しないで、素早く畫を描く事を練習する。此無造作な混雜した線の集合の間に出来上つた畫は、意外に興味に富んだもので、綺麗に掃除した眞面目な、平滑な畫よりも却つて好い感じを與へるものなる事を力説したい。斯ういふ畫は生徒の描寫には不適當といふ教授者もあるかも知らぬが、夫れは全然排斥せねばならない。練習を要する事は勿論であるが、Cに示した様な手法のものは僅かに數回の練習で必ず多少の効果が見られるものと信ずる。序に興味といふ事を了解させる手段として、次の方法を書き添へて置く。

生徒が臨畫の際に大體の輪廓を採る事の程度を誤つて、詳細の箇所即ち筆致の墨痕に迄輪廓を施して、其内を塗るの弊があるのを往々見受ける、是れでは全く畫の趣味を殺した結果になる、之れを最もよく理解させる爲めに、文字を書いて説明するのが便利である、それは最も筆勢を重んじた趣味ある大文字を一枚かき、別に同大の紙に此大文字を籠寫し（出来る限り詳細に輪廓の線を寫し採る）にする、そして、其の内を平たく墨で塗り潰して、此兩者を生徒に示すと。さすが文字の趣味の有無を判斷する事の出来る事は、畫の趣味を判斷するよりも容易である。之れで畫は塗るものではない、畫がくものであるといふ事が分り、畫の趣味といふ事の判斷も大に出来ると思ふ。これは唯筆致の趣味といふ事だけではあるが、清潔なるもの、及び眞面目なもののみが必ずしも畫を描く上の本旨でないといふ事が察せられるであらう。

船の寫生は校外で爲し得る限りは、屋外で寫生を試みたい。動くものゝ速寫の練習には馬車、人力車、自轉車、汽車、飛行機、家禽、家畜類等。



第二題 船

A ポート B 漁舟 C 船舶のスケッチ

船の輪廓は縦にも横にも彎曲した線で出来て居て、形を採るには甚だ困難なもので、一種の建造物でありながら、直線の最も少い形體である、従つて輪廓をとるに最も注意しないと、船の形をなさないから、輪廓の練習に重きを置く事とした。

A 船の中の横木が方向の違はぬ様特に注意した。此船を見るものゝ位置と、船の置き方に依つて透視畫法の説明がありたい。

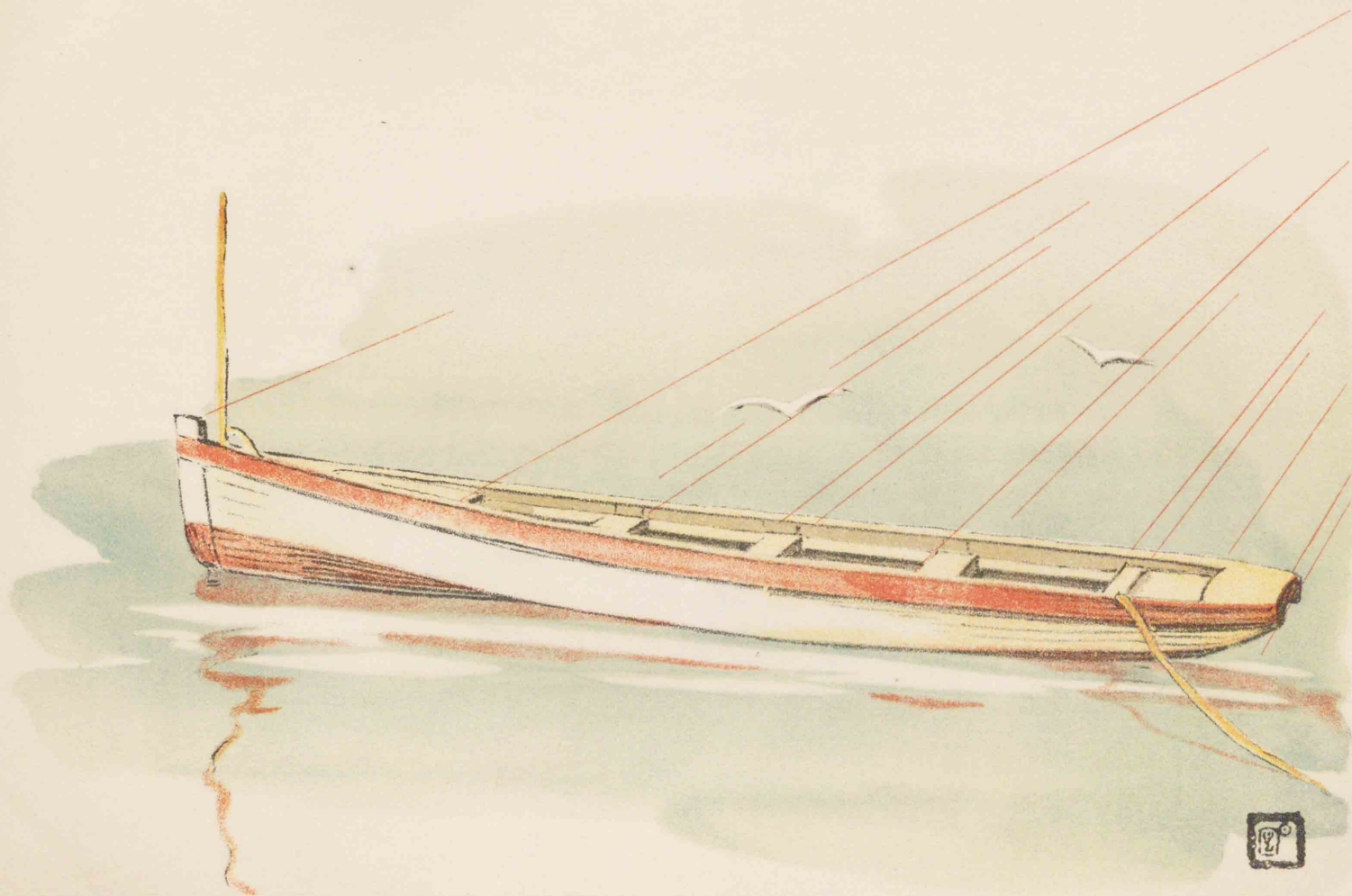
B 漁舟の位置を畫中に按配して背景を考按させる爲めの一例として朱線が描いてある。生徒は寫生に依るか、或は記憶によるか、又は他の畫の描寫に依るかして背景の風物を添へさせる。

C 或る港内に游動して居る船舶のスケッチである。すべて船に限らず動いて居るものを寫生するのに、教室で畫を描く様な態度では、動くものは皆んな去つて仕舞う、依つて畫に繁雜な線の出来るのを顧慮しないで、素早く畫を描く事を練習する。此無造作な混雜した線の集合の間に出来上つた畫は、意外に興味に富んだもので、綺麗に掃除した眞面目な、平滑な畫よりも却つて好い感じを與へるものなる事を力説したい。斯ういふ畫は生徒の描寫には不適當といふ教授者もあるかも知らぬが、夫れは全然排斥せねばならない。練習を要する事は勿論であるが、Cに示した様な手法のものは僅かに數回の練習で必ず多少の効果が見られるものと信ずる。序に興味といふ事を了解させる手段として、次の方法を書き添へて置く。

生徒が臨畫の際に大體の輪廓を採る事の程度を誤つて、詳細の箇所即ち筆致の墨痕に迄輪廓を施して、其内を塗るの弊があるのを往々見受ける、是れでは全く畫の趣味を殺した結果になる、之れを最もよく理解させる爲めに、文字を書いて説明するのが便利である、それは最も筆勢を重んじた趣味ある大文字を一枚かき、別に同大の紙に此大文字を籠寫し（出来る限り詳細に輪廓の線を寫し採る）にする、そして、其の内を平たく墨で塗り潰して、此兩者を生徒に示すと。さすが文字の趣味の有無を判断する事の出来る事は、畫の趣味を判断するよりも容易である。之れで畫は塗るものではない、畫がくものであるといふ事が分り、畫の趣味といふ事の判断も大に出来ると思ふ。これは唯筆致の趣味といふ事だけではあるが、清潔なるもの、及び眞面目なもののみが必ずしも畫を描く上の本旨でないといふ事が察せられるであらう。

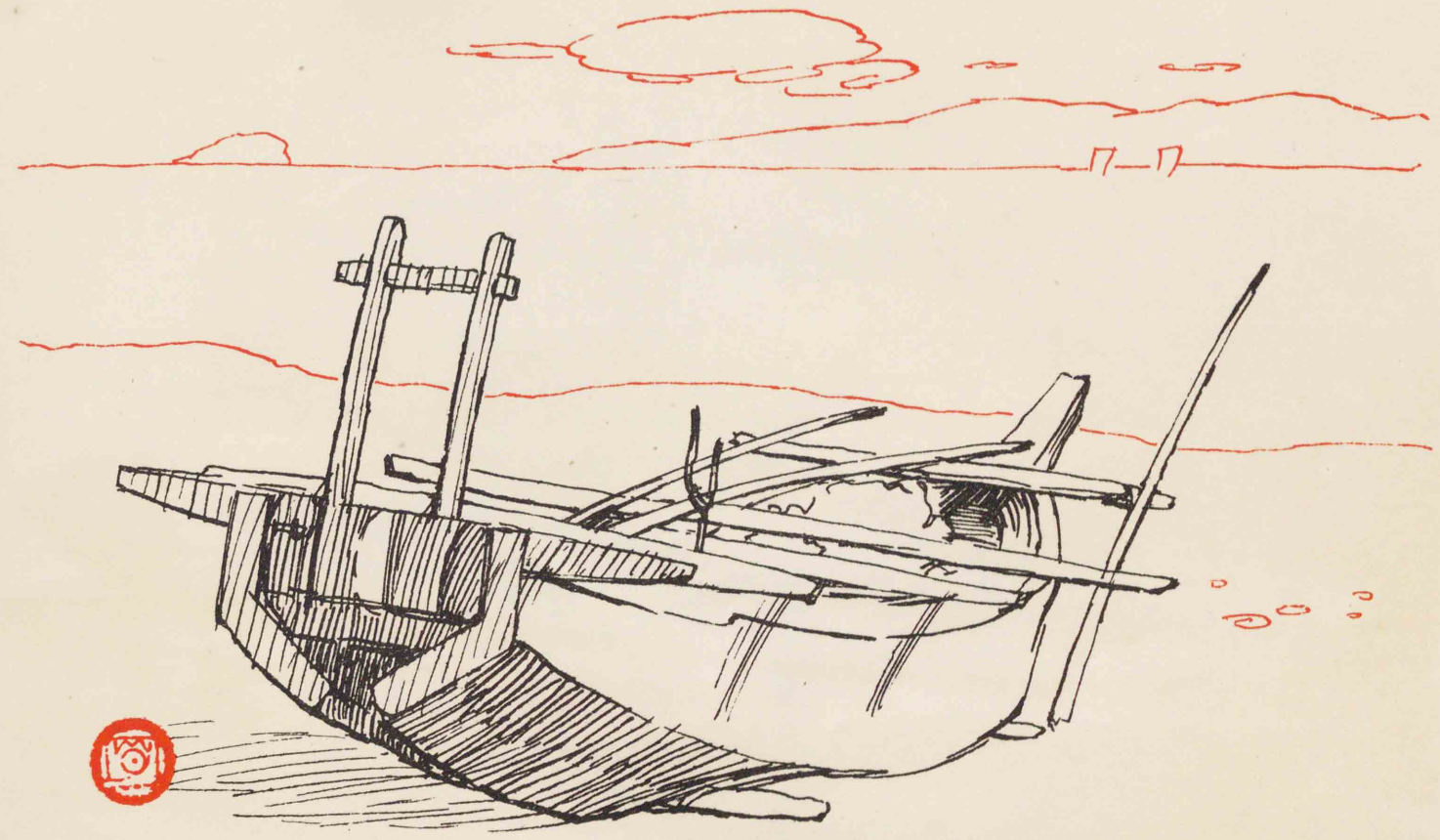
船の寫生は校外で爲し得る限りは、屋外で寫生を試みたい。動くものゝ速寫の練習には馬車、人力車、自轉車、汽車、飛行機、家禽、家畜類等。

(注意 本紙片は教師諸賢の参考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)



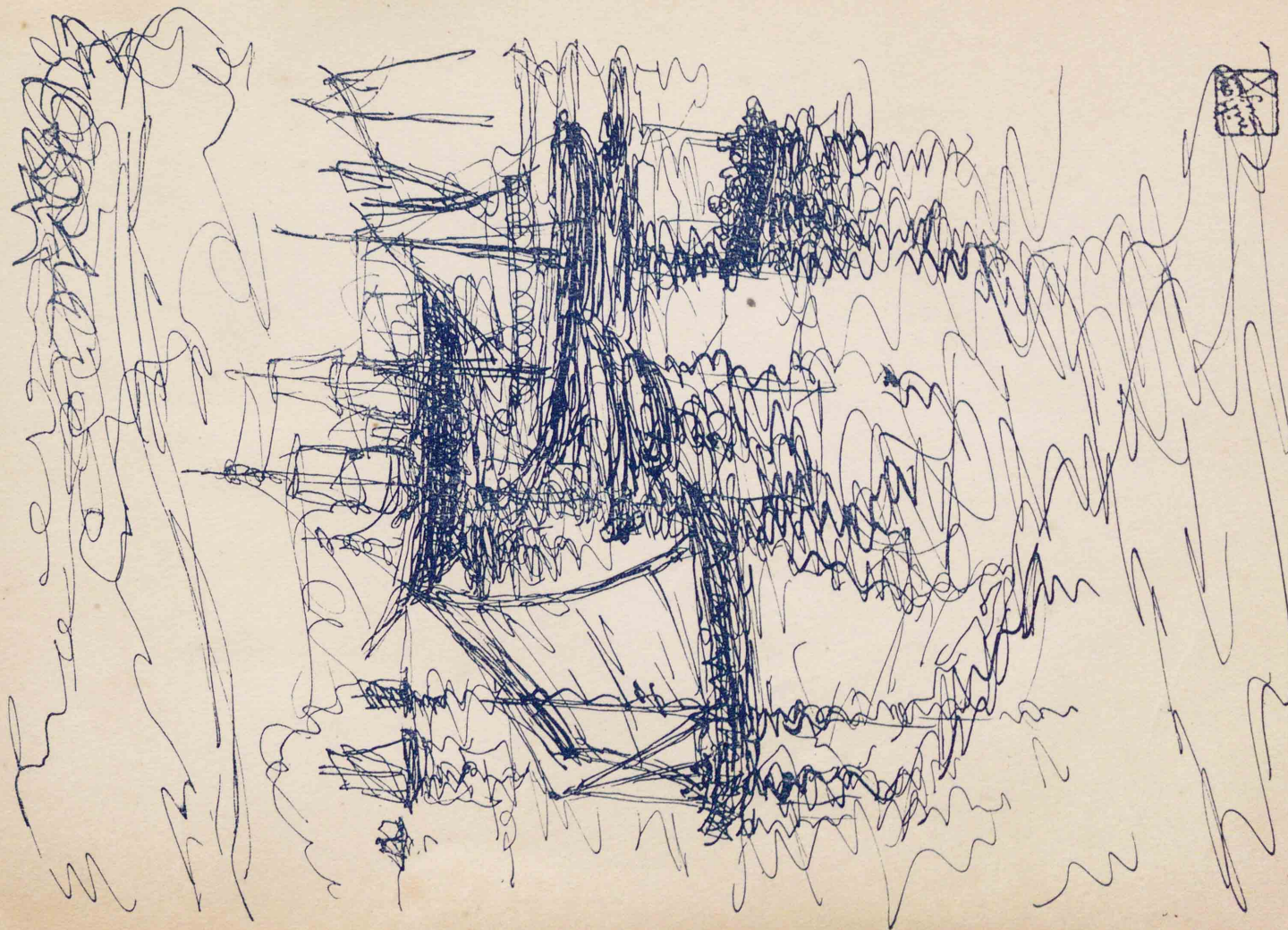
貳. 2. A.

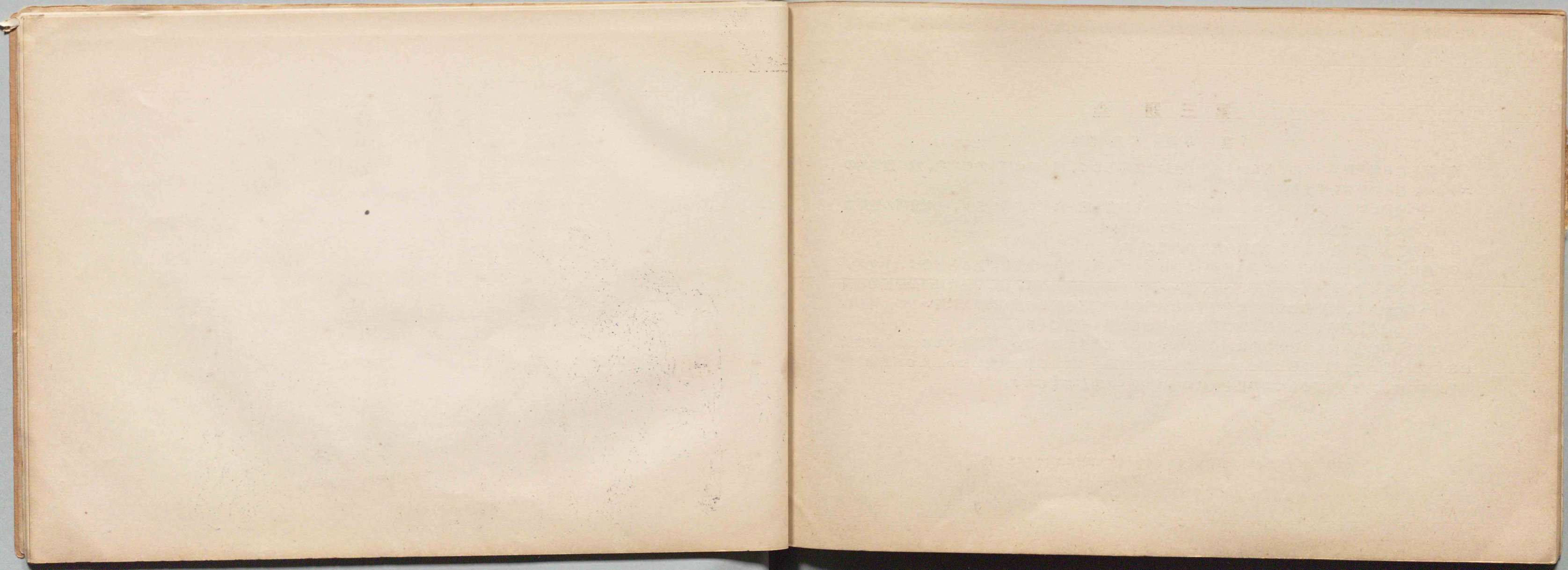




貳. 2. B.







第三題 蟲

A 蟄 B 蟲 C 蟲の模様

蟲の描寫は材料を得易いものであるから必ず寫生による事として、或る時は標本的の寫生、或は速寫的のスケッチ、様々の練習を要する。

A 一つ位置に固定して居る譯にゆかぬ動物であるから描寫を速かにする必要があり、また皮膚の粗雑な感じのするものであるから、餘り滑かな筆を用ひぬがよい。

B 蟲の描寫の數種を示して他の蟲類の寫生の參考とした。

C 蟲には習慣の上から不氣味なものが多い、けれどもよく其形や色を研究して見ると假令ば、トカゲ、ヤモリ、イモリ、オタマジャクシ、ヘビ、サンショノウラの様なものは、其形や色には随分模様の面白くある、模様化して實物に應用するには他の植物などを配して描く時は殊に好いものを得られる。散布模様、連続模様、裝飾畫等の考按の資料として最も適當である。

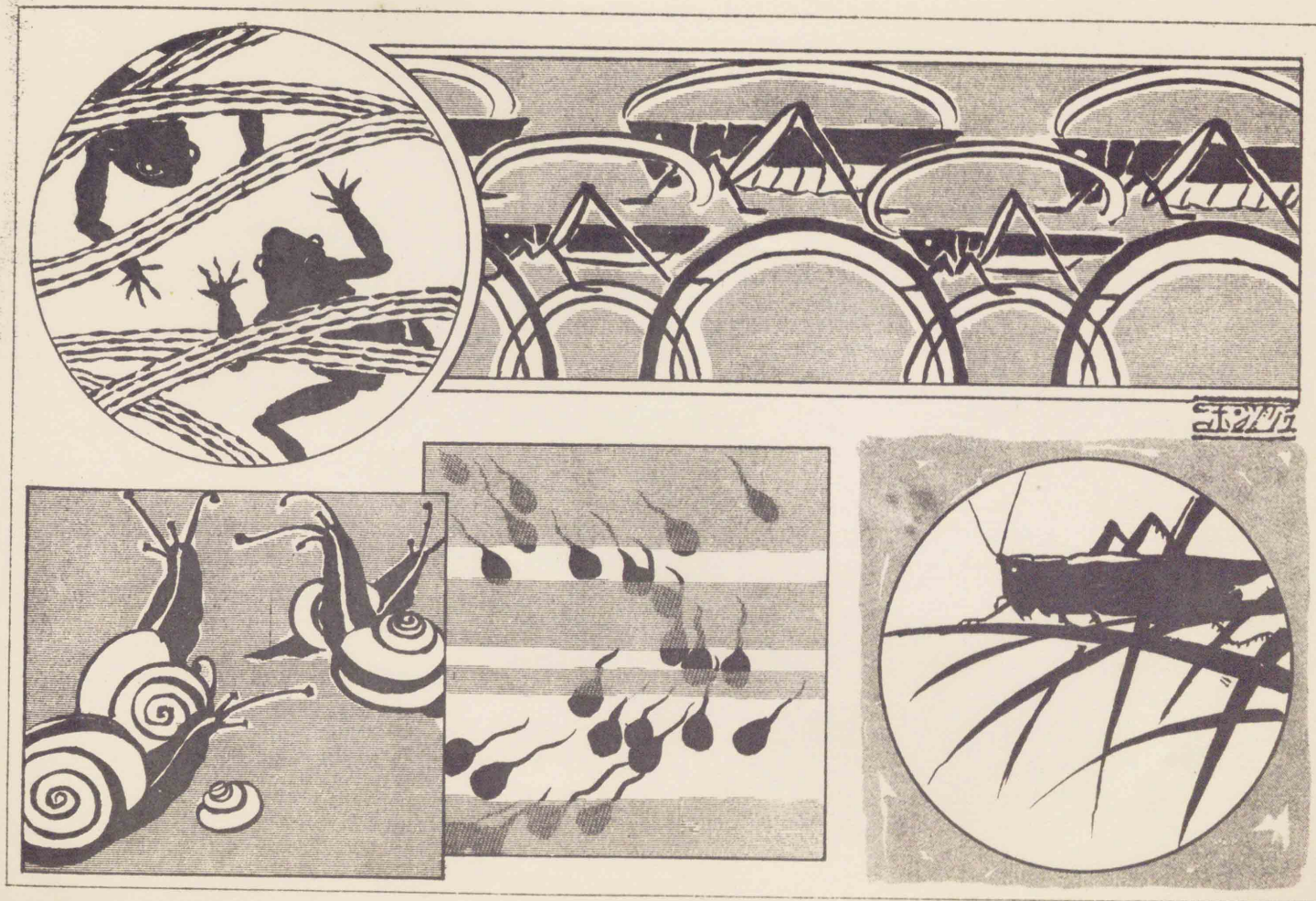
蟲の寫生材料は生きたものを罎の中に置くか、ピンで止めて寫生するが好い。模様化するには餘り寫生的にならぬ様、力めて大體の姿勢と形とを失はぬ限り詳細の部分を省略する事を研究したい。凡て天然物を模様化するには、其物の模様としての特長を失はぬ様に注意する事が必要である。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)

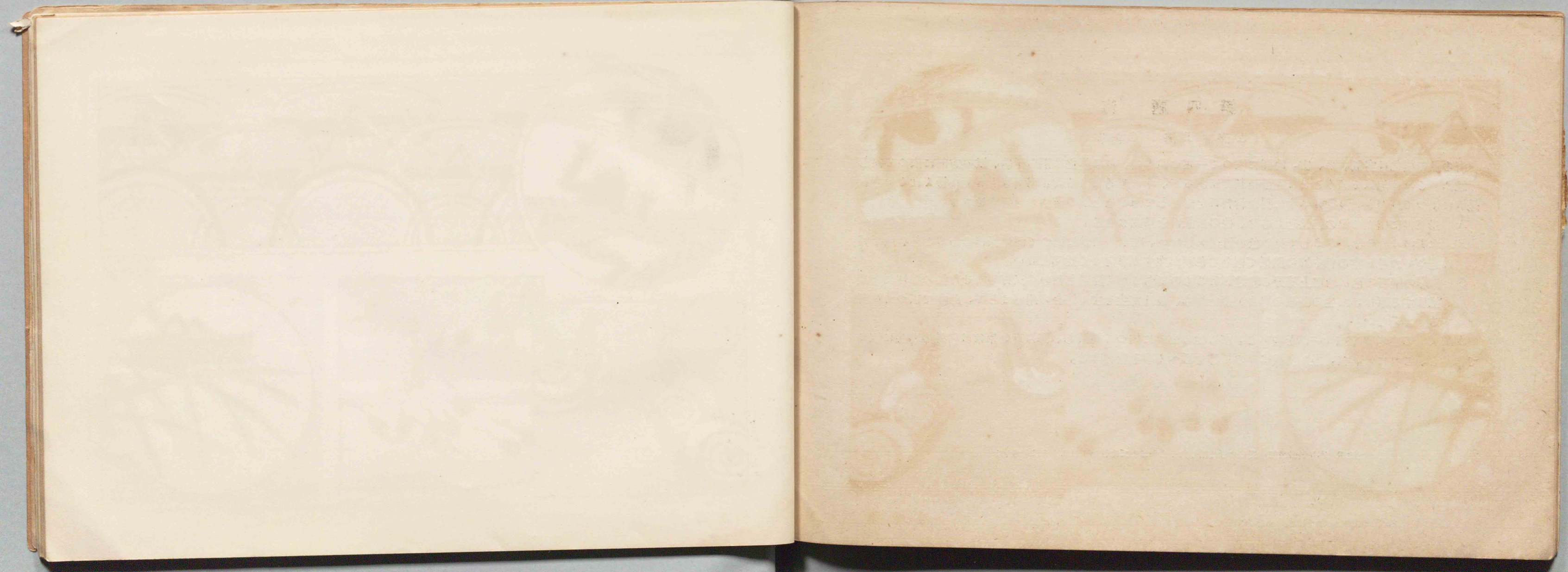




图 3. B.



貳. 3. C.



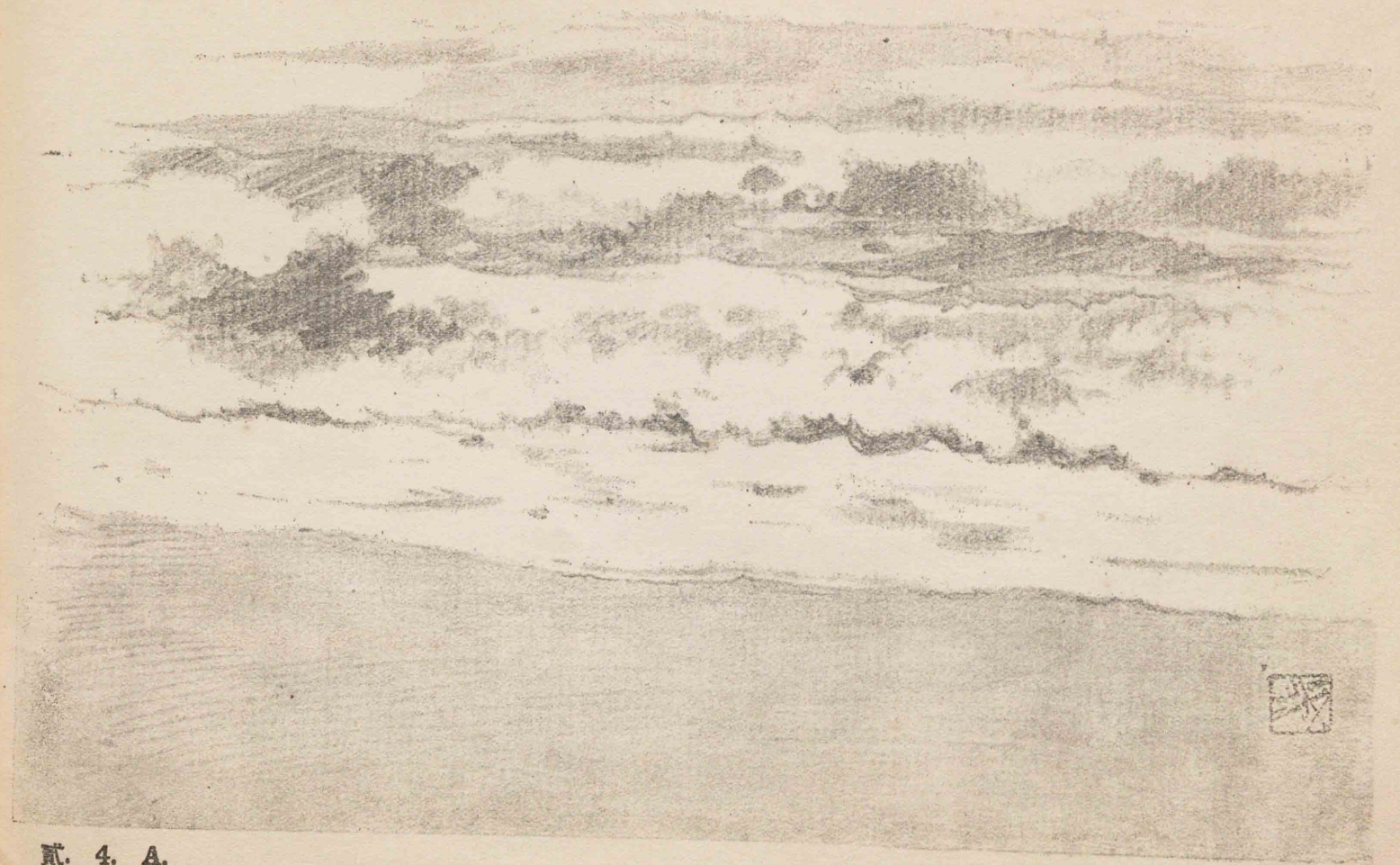
第四題 海

A 海 B 海 C 海岸

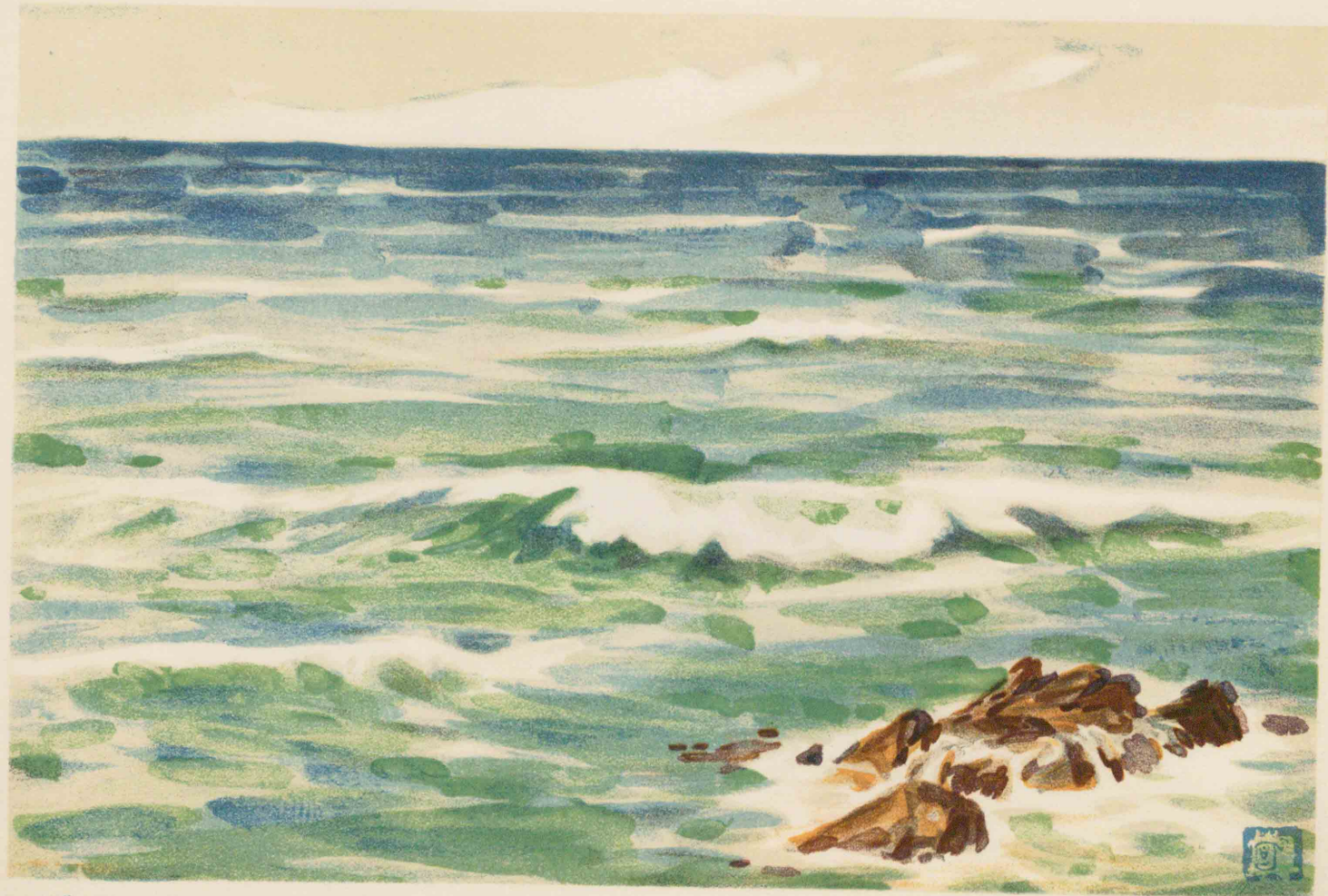
海の色の變化は空氣、風、雲、時間に依つて一定せぬもの、浪の變化は潮の干満、風の方向に依つて甚しく違ふ。これは想像で描くことは随分無理ではあるが、幸に参考になる畫、寫眞等も容易に得られるから、是等に依つて練習し、夏期休暇中に得た材料等を參照して海の色と浪の描法とを研究せざる。

- A 鉛筆畫に依つて浪の描法を知らせ、他の風景畫を構成させる。
 - B 水彩畫の着色を參考として海の色の研究がしたい、唯水の深さに依つて深い綠色のあること、地平線に近づいた色が空の色や風の關係で強烈な色調が生ずる事をよく説明したい。
 - C 海岸の巖石の色は地理上随分の相違があるものであるから注意したい。又打ち寄せた浪の碎けた有様を描寫する事は、寫生の困難の場合が多いから、他日寫生をする場合の用意として、此畫に依つて練習するもよろしい。
- A B C の參考畫で或は一部を模寫し、或は他の寫眞に依つて構圖し、海に近い學校は校外の寫生に依つて作畫し、これに船、雲、巖、鳥或は岸の松等を添へる事を練習する。

(注意 本片紙は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)



貳. 4. A.



貳. 4. B.





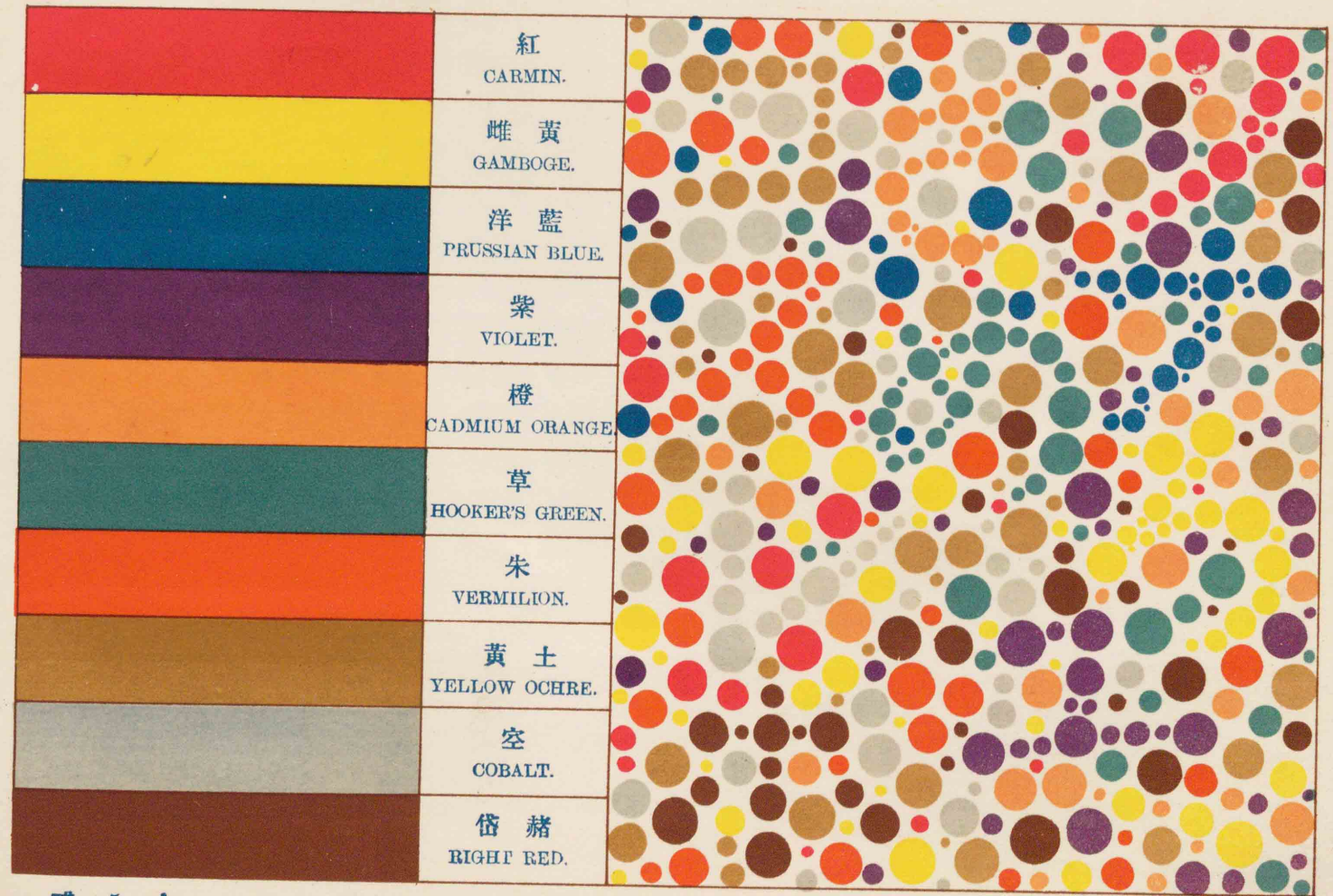
貳. 4. C.





描いてある畫の上に試みる時は、其畫に意外な感じを新にする事も山水、人物、花鳥、
 空氣、晴雨、月夜等の變化で意外な好風景を現出する事も認められる。又夫れが畫の着色を施した上にも
 好い感じが浮び出るであらう。即ち見馴れた景色は三原色の對照に止まる平凡な色でも、日の出、霧、
 雨、入日、月夜等の特別な色に蔽はれて、色調の變化するといふ理になるのである。
 本題は直接描寫に關係はなくとも、最も興味のある問題であるから、生徒自身に模寫して試みさせるもよく、
 Cの如きは生徒の作畫の上に色のあるセルロイドを蔽ふて調子の變化を感じさせ、又は出来上つた作畫
 の上に他の淡色を全體に施して、畫の調子に變化を與へる事を知らせる必要がある。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)



貳. 5. A.



第五題 色彩

A 色彩表 B 錯覺 C 色の統一

色彩に就ての種々の錯誤、形の錯誤、強烈な色調と、色の統一とを表と圖とに依つて説明する事とした。

A 三原色に近似の色十色を現して色の名稱と、之れに依つて熱色と寒色との區別を教へる。右方の表は色盲を試験するの材料として試みたものである。圖中には前に述べた十色が最も不規則に散布されてあるから、若しも色の區別を爲し得ぬ所謂色盲のものには色の辨別が出来ぬ、即ち表中にある文字が読み得ぬものが出来る、元來色盲は生徒中勿論稀のものではあるが、最近の生徒の視力の調査によると三バ

コ
ス
レ
ホ

ツ
ナ
ロ
ユ

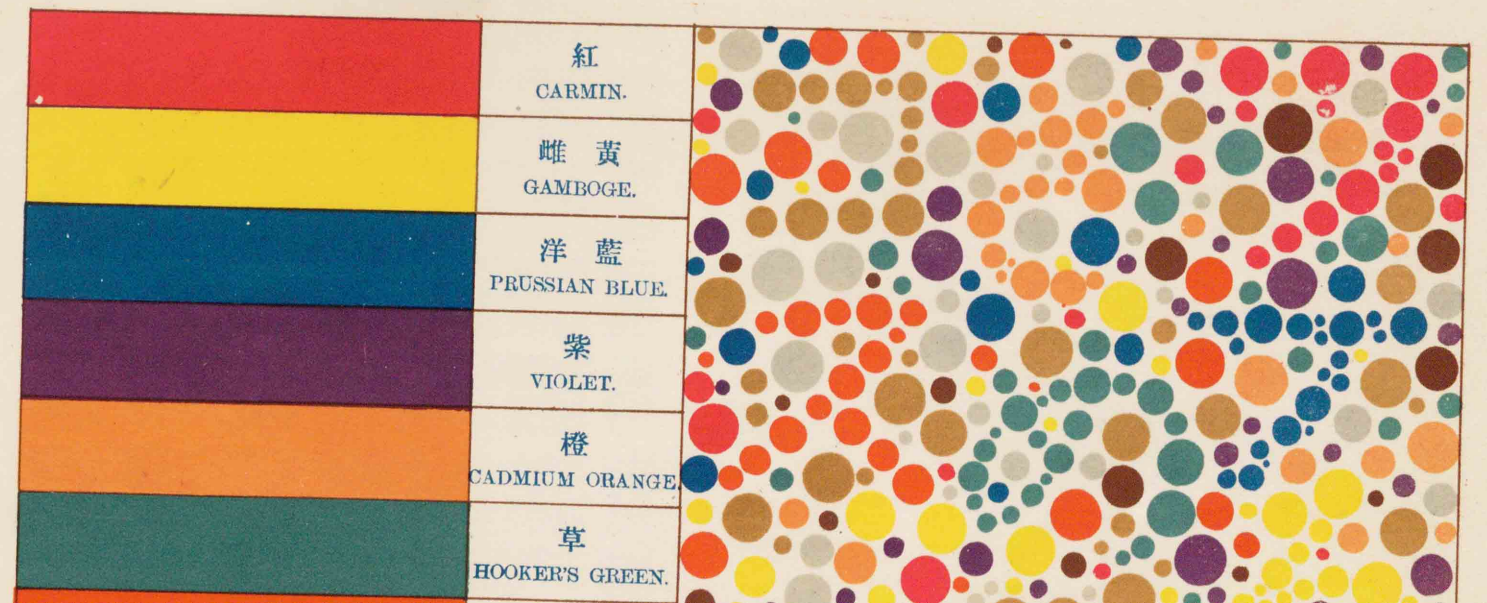
さ
め

アセント位はあるとの事である、其多くが近似色の色盲よりは却て反対色の青と赤との辨別に苦しむ様なものが多いのは意外と謂はねばならない。又或學生の成績品中深緑の杉の臨書をさせたものに、杉の着色をライトレッドで描いて更に怪しまぬものがあつたには驚かざるを得なかつた。表中にある文字は全然無意味な文字で、特に字劃の錯誤し易い文字を選んだ迄である。

B 線と色との交錯した關係から、線、形、或は色を正確に見る事の出来ぬ場合がある即ち

- (1) は複線を格子形に配列して廣い正方形の部を黒色にした爲めに、其間にある最小の正方形の中に淡黒色が見へる、此小なる正方形は全く白色の紙の色である。
- (2) は二つの大なる圓を濃黒色と淡黒色とを以て塗り、そして中央の小圓中の淡黒色が左方が濃く、右方が淡く見へる。此二つの小圓は全く同じ淡黒色の濃度である。これは色の對比に依つて差を感じるもので、廣い赤色の中央に小さな濃黒色を點すると、其黒は赤の反対色即ち綠色を帯びて眼に映じるものである、是れは色の對比と謂ひ即ち色の錯覺である。
- (3) 方形の内に圖の如く斜な線を交叉して描くと、外圍の方形の邊が横は縦より短かく感ずる、此外圍は正方形である。また方形中に交叉した斜線の交點から離れて見へるのも一つの錯覺である。
- (4) 四本の並行線を破つて斜に引いた多くの直線は各方向が異つて見へる、此直線は一直線上にあるものである。
- (5) は方形の中心に集合した斜線を破つて二本の彎曲線が見へる。此二線は正しく直線である。
- (6) 圓周中の相對した扇形に圖の様な線を施した。此残りの線のない空間は、線のある扇形よりも遙かに廣く感じる。而してこれが各九十度である。
- (7) 二直線の兩端に内方、外方の角が附けてある、一直線は他線と甚しい長さの相違が感じられる。此二直線は同長である。
- (8) 不等邊三角形の邊に添つて各長さの異つた三直線が見へる。此三直線は同長である。
- (9) 四個の複線の様に相對した斜線を加へた、此複線の距離は兩端で甚しい相違がある。此複線は總べて並行線である。

C 三原色の對照は明瞭である、色調が強烈に感じる、或場合を除くの外は幼稚なる感じがする、即ち子供の玩具の色彩の調子を思はせる。此強烈な對照を融和する爲め即ち反対色を互に接近させて、種々な



の辨別に苦む様なものが多いのは意外と謂はねばならない。又或學生の成績品中深緑の杉の臨書をさせたものに、杉の着色をライトレッドで描いて更に怪しまぬものがあつたには驚かざるを得なかつた。表中にある文字は全然無意味な文字で、特に字劃の錯誤し易い文字を選んだ迄である。

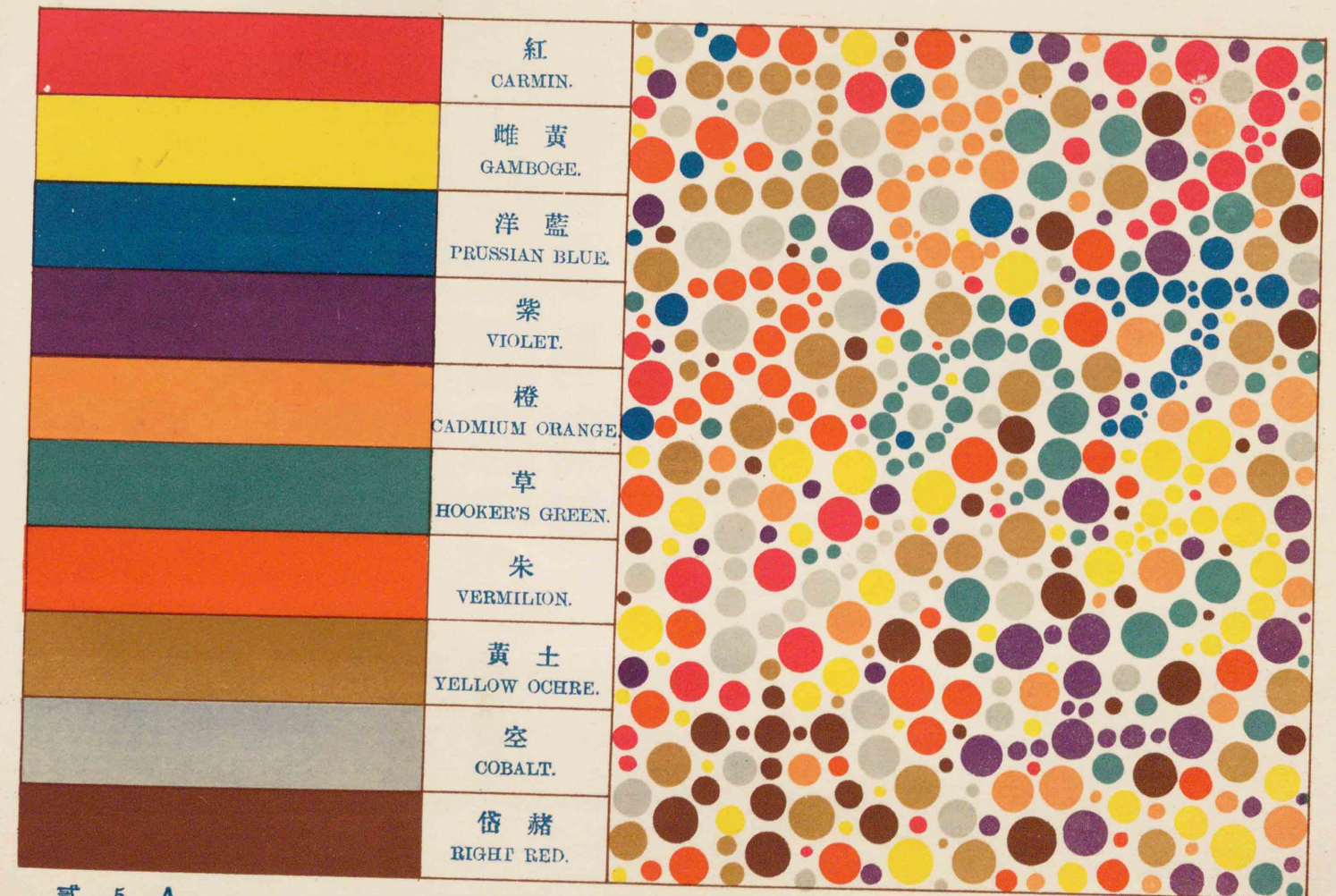
B 線と色との交錯した關係から、線、形、或は色を正確に見る事の出来る場合がある即ち

- (1) は複線を格子形に配列して廣い正方形の部を黒色にした爲めに、其間にある最小の正方形の中に淡黒色が見へる、此小なる正方形は全く白色の紙の色である。
- (2) は二つの大なる圓を濃黒色と淡黒色とを以て塗り、そして中央の小圓中の淡黒色が左方が濃く、右方が淡く見へる。此二つの小圓は全く同じ淡黒色の濃度である。これは色の對比に依つて差を感じるもので、廣い赤色の中央に小さな濃黒色を點すると、其黒は赤の反對色即ち綠色を帯びて眼に映じるものである、是れは色の對比と謂ひ即ち色の錯覺である。
- (3) 方形の内に圖の如く斜な線を交叉して描くと、外圍の方形の邊が横は縦より短かく感ずる、此外圍は正方形である。また方形中に交叉した斜線の交點から離れて見へるのも一つの錯覺である。
- (4) 四本の並行線を破つて斜に引いた多くの直線は各方向が異つて見へる、此直線は一直線上にあるものである。
- (5) は方形の中心に集合した斜線を破つて二本の彎曲線が見へる。此二線は正しく直線である。
- (6) 圓周中の相對した扇形に圖の様な線を施した。此残りの線のない空間は、線のある扇形よりも遙かに廣く感じる。而してこれが各九十度である。
- (7) 二直線の兩端に内方、外方の角が附けてある、一直線は他線と甚しい長さの相違が感じられる。此二直線は同長である。
- (8) 不等邊三角形の邊に添つて各長さの異つた三直線が見へる。此三直線は同長である。
- (9) 四個の複線の様に相對した斜線を加へた、此複線の距離は兩端で甚しい相違がある。此複線は總べて並行線である。

C 三原色の對照は明瞭である、色調が強烈に感じる、或場合を除くの外は幼稚なる感じがする、即ち子供の玩具の色彩の調子を思はせる、此強烈な對照を融和する爲め即ち反對色を互に接近させて、穩かな調子を得させる爲めに、他の或淡色で全體を蔽ふ時は、其三原色の對比少なからぬ親密な調子を認める。これを色の統一といふ。これを試みる爲めに淡色の色玻璃か、同様のセルロイドの板を用意して、既に描いてある畫の上に試みる時は、其畫に意外な感じを新にする事も出来、均しい見馴れた風景が時間、空氣、晴雨、月夜等の變化で意外な好風景を現出する事も認められる。又夫れが畫の着色を施した上にも好い感じが浮び出るであらう。即ち見馴れた景色は三原色の對照に止まる平凡な色でも、日の出、霧、雨、入日、月夜等の特別な色に蔽はれて、色調の變化するといふ理になるのである。

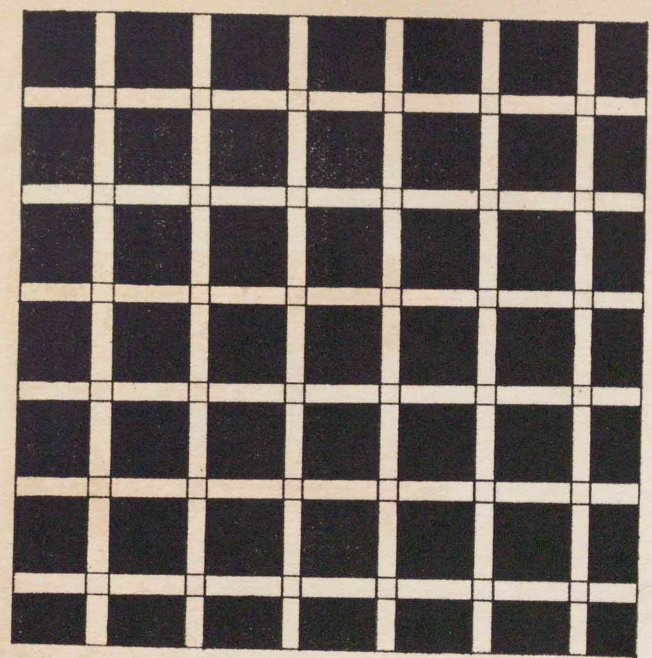
本題は直接描寫に關係はなくとも、最も興味のある問題であるから、生徒自身に模寫して試みさせるもよく、Cの如きは生徒の作畫の上に色のあるセルロイドを蔽ふて調子の變化を感じさせ、又は出来上つた作畫の上に他の淡色を全體に施して、畫の調子に變化を與へる事を知らせる必要がある。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)

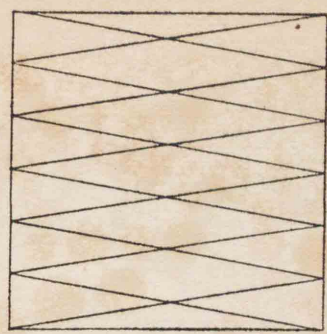


貳. 5. A.

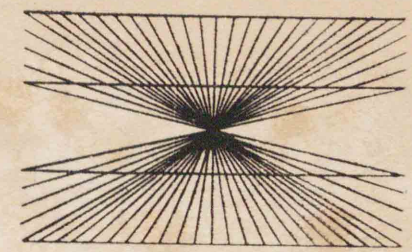




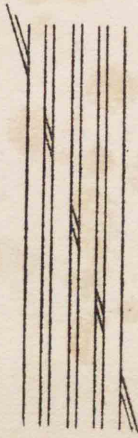
1



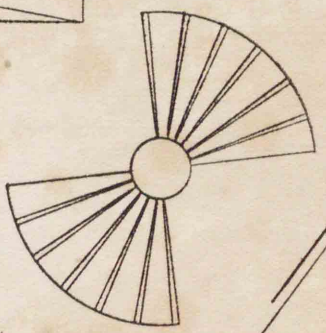
3



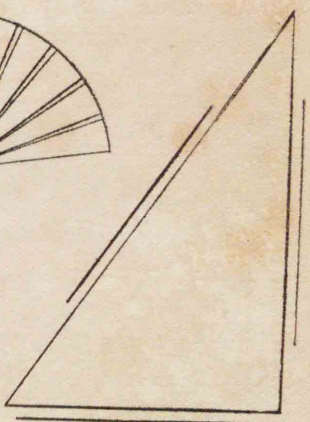
5



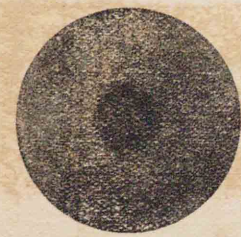
4



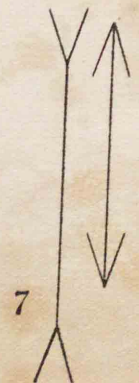
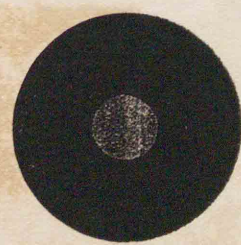
6



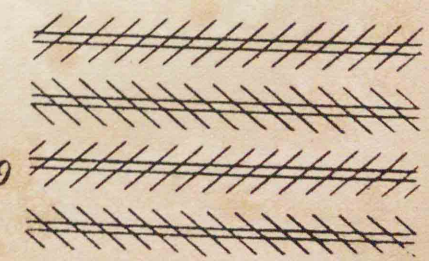
8



2



7



9

貳. 5. B.



貳 5. C.





第六題 果物と野菜

A 栗 B ツルモドキ C 慈姑

同じ形の小さなものを数多く描く場合の配置の仕方と、描法に多少の相違を生せしめる事とを教へたい。

- A 同形の栗の實を種々の方向に散布した、尙此上にも数多く栗の實を配置することを試みさせたい。
B ツルモドキの實を数多く位置を選んで散布した裝飾畫である、此畫を參照して他の模様、或は實物の寫生畫を作らしめたい。
C 慈姑の数多を様々の方向と精粗種々の描法で現はしたものである、此畫の幾部分を選んで新たに位置を考按したものを描かせ、實物の色を寫生して自由な着色を施したい。

同じ形のものも多く描く場合には必ず其畫の中心となる處即ち最も眼を注ぎ易い處を一ヶ處定める事が必要である（此中心とは幾何學的の紙の中心といふ意味ではない）此中心となつた處が畫の主眼な場所であるから、此處に畫かれたものは最も精しく寫生したものでなければならぬ。又色調も強烈でなければならぬ。最も注目し易い鮮かな色彩を施すことを望ましい、夫れから他方へ轉じて第二、第三といふ様に次第に調子の低い描法を採れば畫は自然に整頓してくる。これを最も明かに説明する爲めに假りに謠曲のシテ、ワキ、ツレを例とする、いふ迄もなく謠曲のシテなるものは曲中最も力ある所謂中心となる者で、最上の品位を保ち、力強く謠ばねばならぬもの、夫れからワキとなり、ツレとなるに随つて品位も落ち、舉動も軽くなるものとなる。これを再び畫に就て説明したならば、爰に三個の苹果の畫があるとして、此三個の苹果を寫生するに三個とも同じ程度に陰影も施し、着色もして仕舞つたならば全く繪とはならない、必ず中心となるべき位置の場合置の苹果には（シテ）最も注意深い描寫をなし、其外は（ワキ、ツレ）次第に調子を低くめ、用筆を略すといふ事にならねばなるまい。若しも三個とも同じ描法、着色をしたならば、丁度一家族三人の家に、其三人が皆主人であり、或は妻君であるといふのと同じ事になる。これでは一つの家庭は形づくられまい。

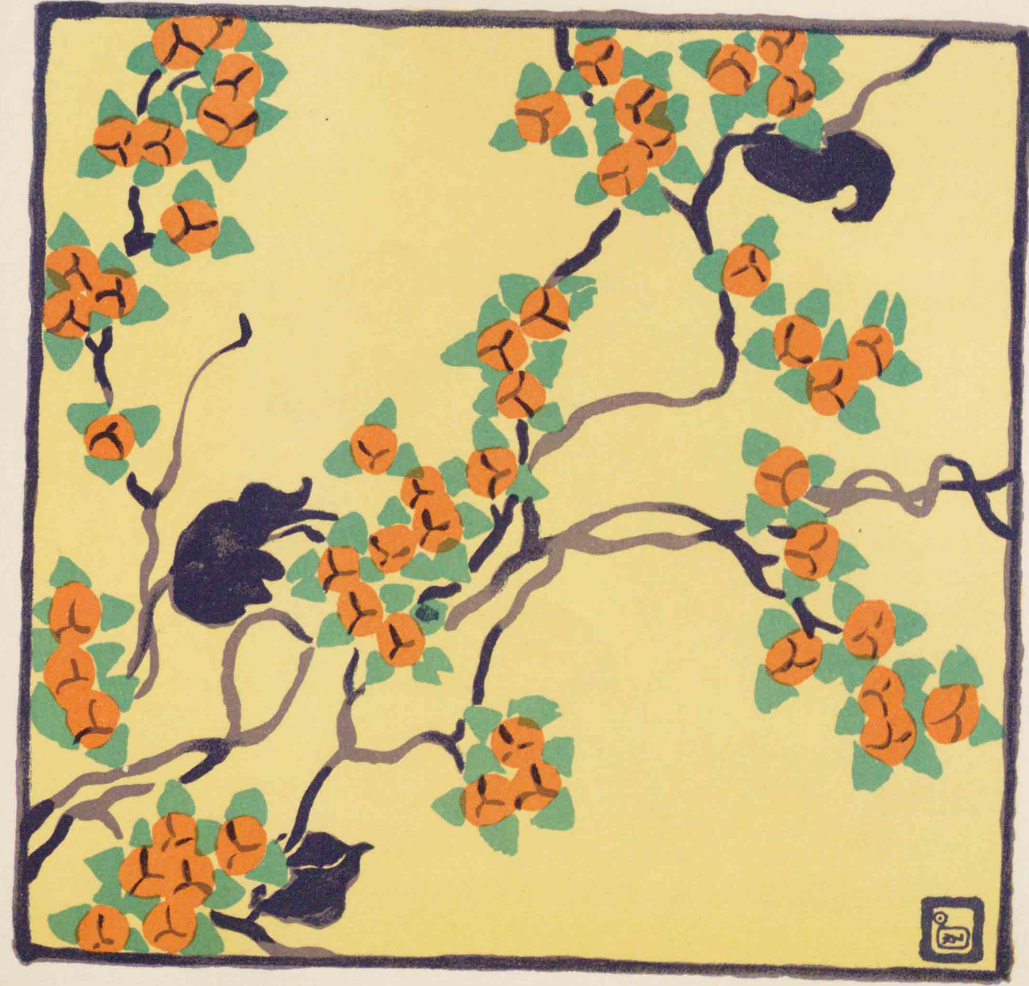
寫生の材料としては、枝に附いた木の實、或は枝から取り離した果實、球形、立方形などの小さな玩具、マッチ箱、馬鈴薯、玉葱の様な野菜、摘み取つた薔薇花、菊花などが好材料であらう。

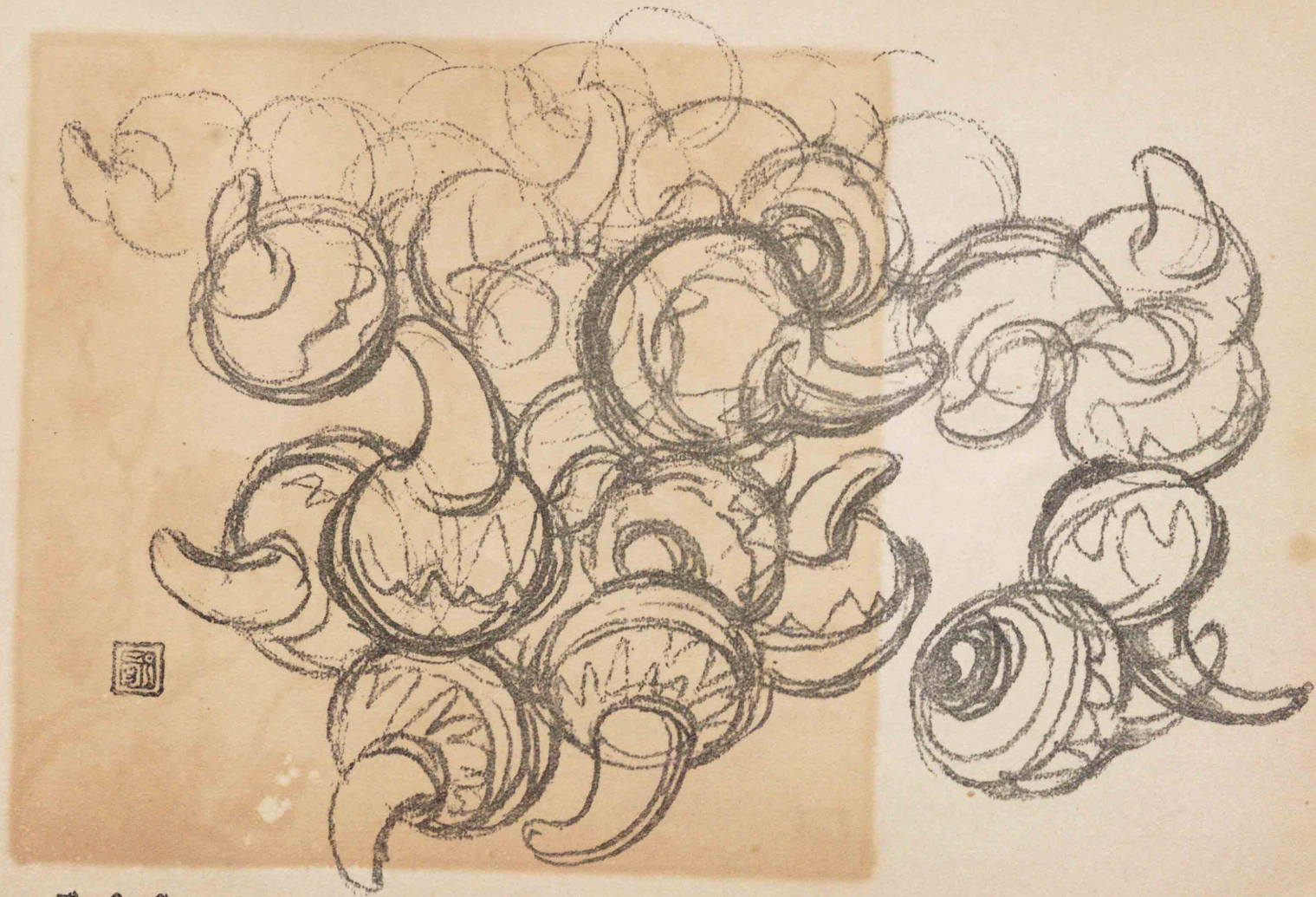
（注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず）



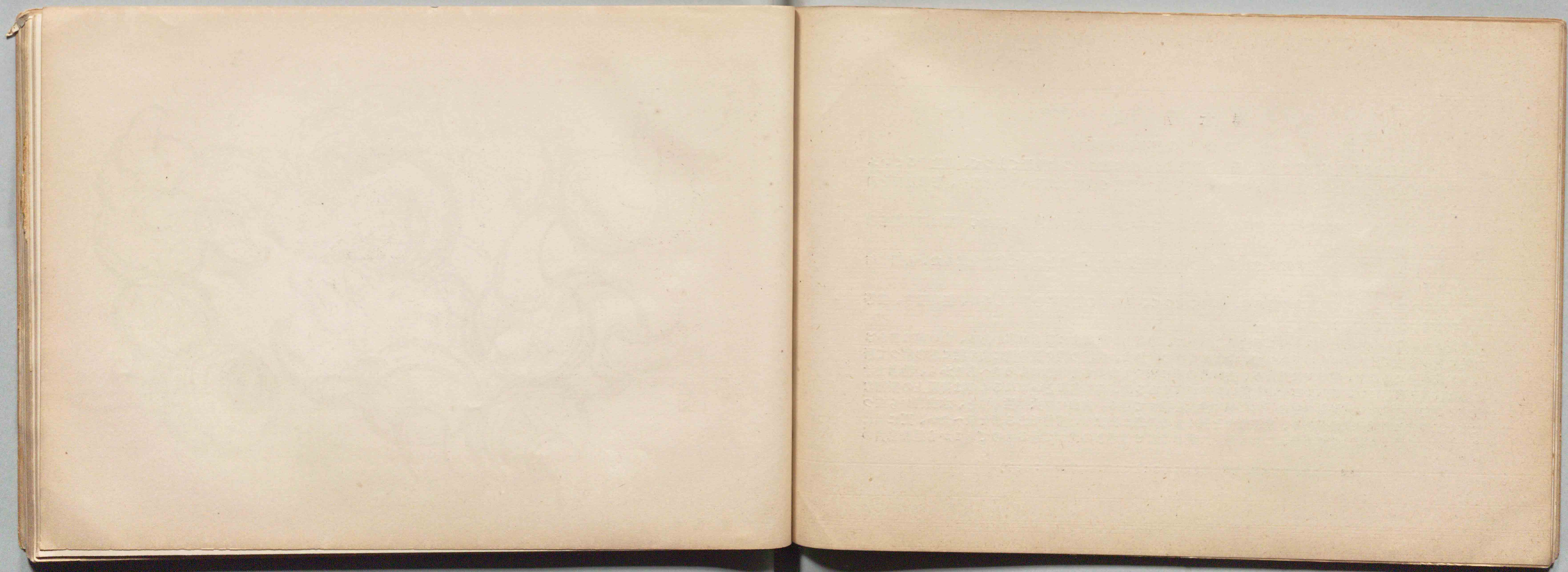
貳. 6. A.







貳. 6. C.



第七題 山

A 山 B 山 C 穂高山の裝飾畫

日本は山を寫生する場所が豊富である、僅かに數縣丈けが山に遠ざかつた平野であつて、寫生するといふ事が難事であるかも知れない。此の場合の爲め山の描寫を教科書で練習して置いて、休暇や、修學旅行を利用して是非山の寫生を試みたい。

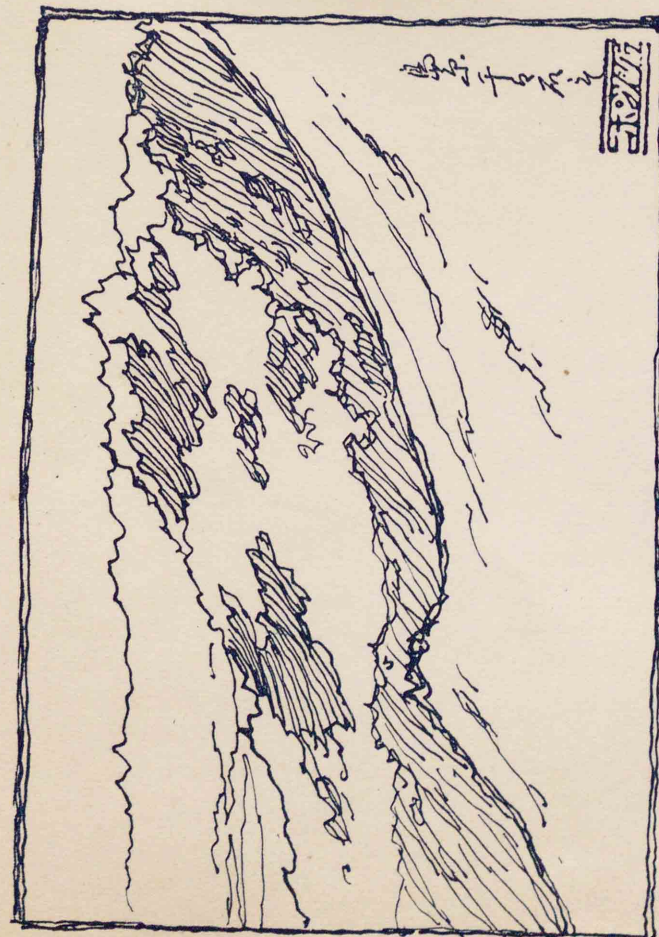
A 山の皺の描方、距離に依つての省略の仕方を練習させたい。上圖は島原千々岩にて下圖は別府高崎山の寫生である。

B 山の着色の練習の爲めの參考畫である。他の山の風景或は山の一部を描いて着色を試みたい。圖は相州雨降山の寫生、

C 日本の名山としての穂高岳の裝飾畫、此圖に依つて、他の山の裝飾畫を作らしめる、無論樹木、雲等を按配することが望ましい。

生徒が山を描くに其輪廓の採り様に不注意な爲めに、穂高山が穂高山にならぬ事がある、山の畫は其小さな皺に至る迄殆んど不變のものであつて、中には甲州の農鳥山、信越の蝶ヶ岳の様に山の皺に雪の積つて居る形が或時期に鳥の形、蝶の形に見える、夫れ等の形に依つて山の名を命じたものさへあるから、輪廓丈けは特に注意を要したい、昔から富士山を描いた畫が多くあるが、苟も名畫といはれるものは皆頂上の微細な輪廓と、左右に流れた傾斜した線の描寫に殊に注意を拂つて居る。尙山には火山性の山と、水成岩から成つた山で其輪廓に剛柔の相違がある、是等は山を描くものの忽に出來ない要件である事を教へたい、更に山には必ず添ふて居るものは雲である、これも海上に現れる雲とは趣きの異つて居るものであるから是非寫實の必要がある。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)





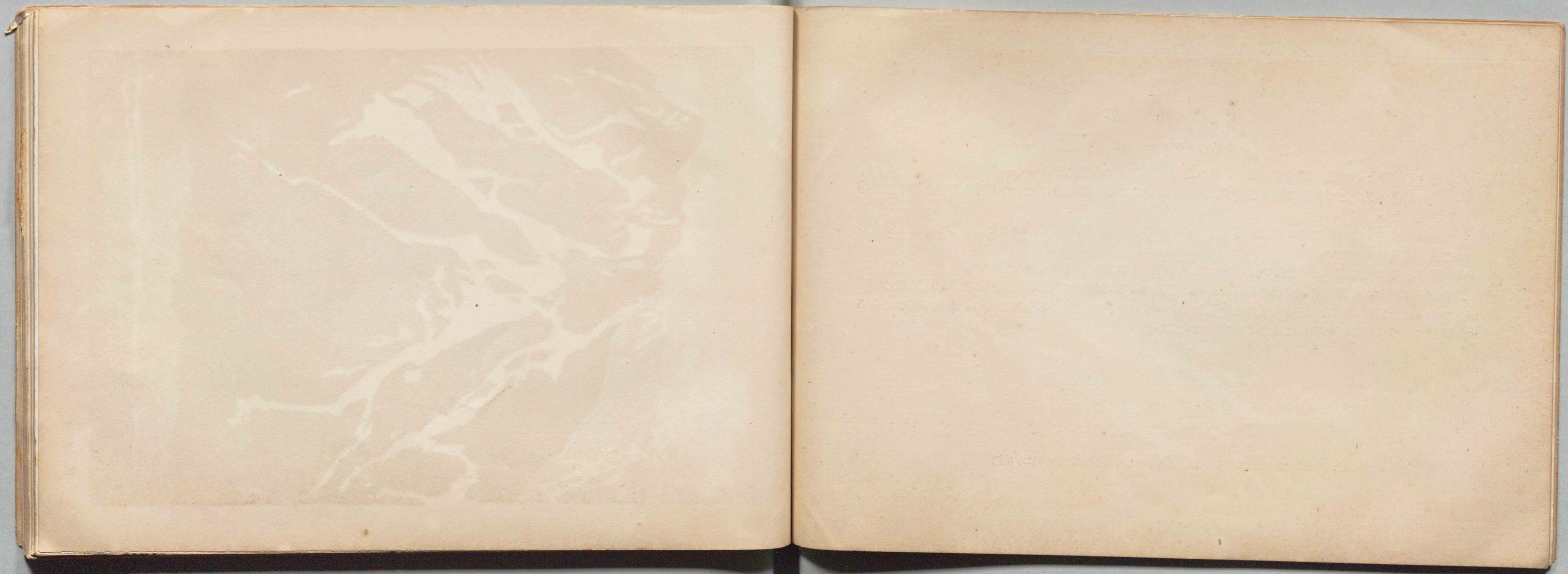
相州西降山



貳. 7. B.



PL. 7. C.



第八題 鳥

A 鳥 B 小鳥のスケッチ C 雁の裝飾畫

鳥の様々な姿勢と、羽翼を省略する描法、及び鳥の位置に就ての變化を教へる。

A 鳥の羽色が黒いとて眞黒に墨を塗抹するものでないこと、又樹の枝に止まつて居る姿勢、脚の位置等を注意したい。

B 小鳥の略畫は他の畫の内に按配する場が多いから、出来る限り多くの描寫を練習して、精粗様々の描法を熟練せしめたい。

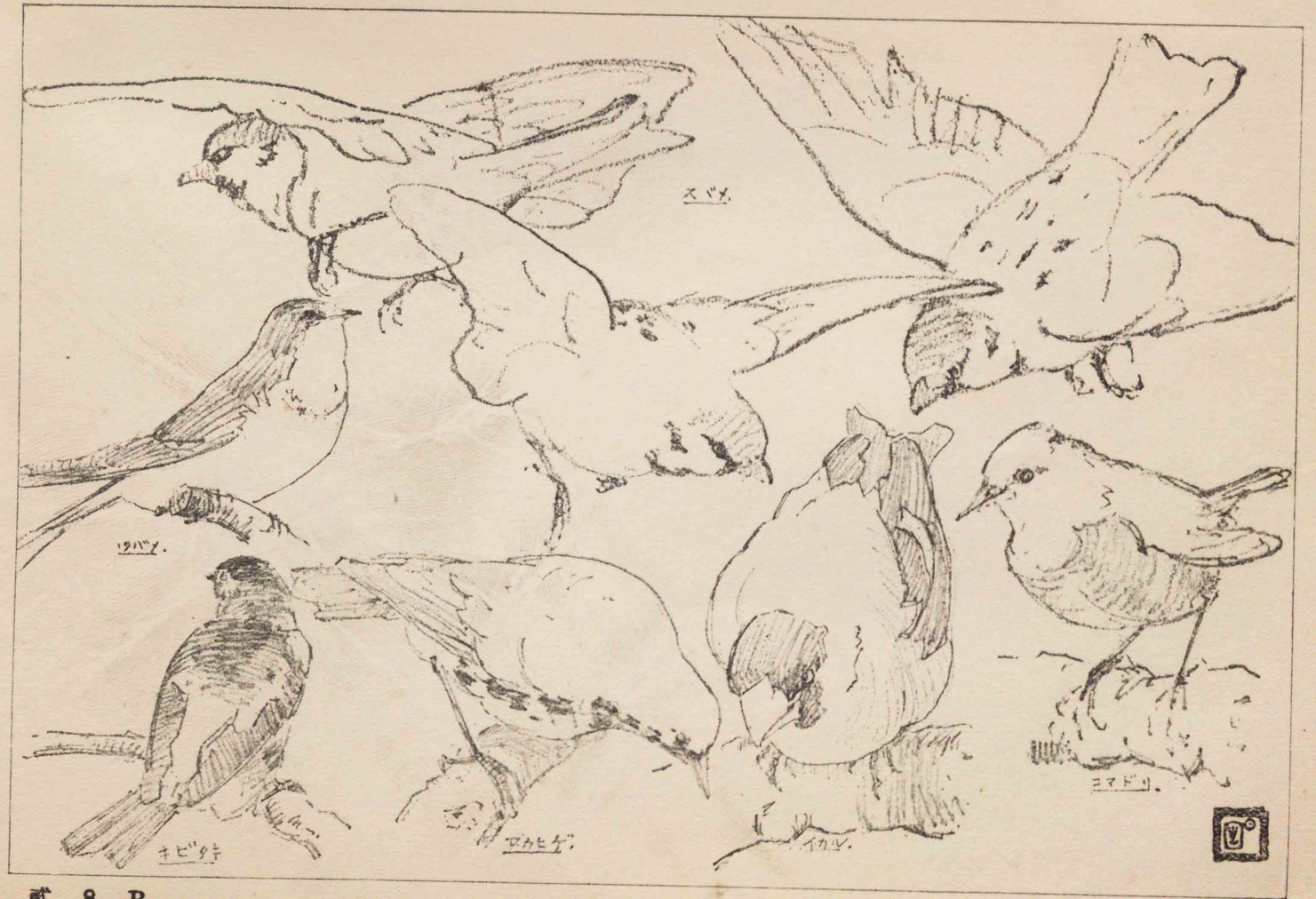
C 圖中の雁は朝鮮産のものを描いた、従つて内地産のものよりも頸が幾分か短かい。

鳥の寫生は家禽、社頭の鳩、或は動物園等の外は剝製によるのが便である、唯剝製の標本には眼球の誤りがあつたり、(鶯鳥類の眼球を家禽に入れたりしたものゝ様に)脚の位置に不自然なもの、水禽が高さのあるべき樹枝に止つて居る等の事はよくよく注意して欲しい。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)



貳. 8. A.



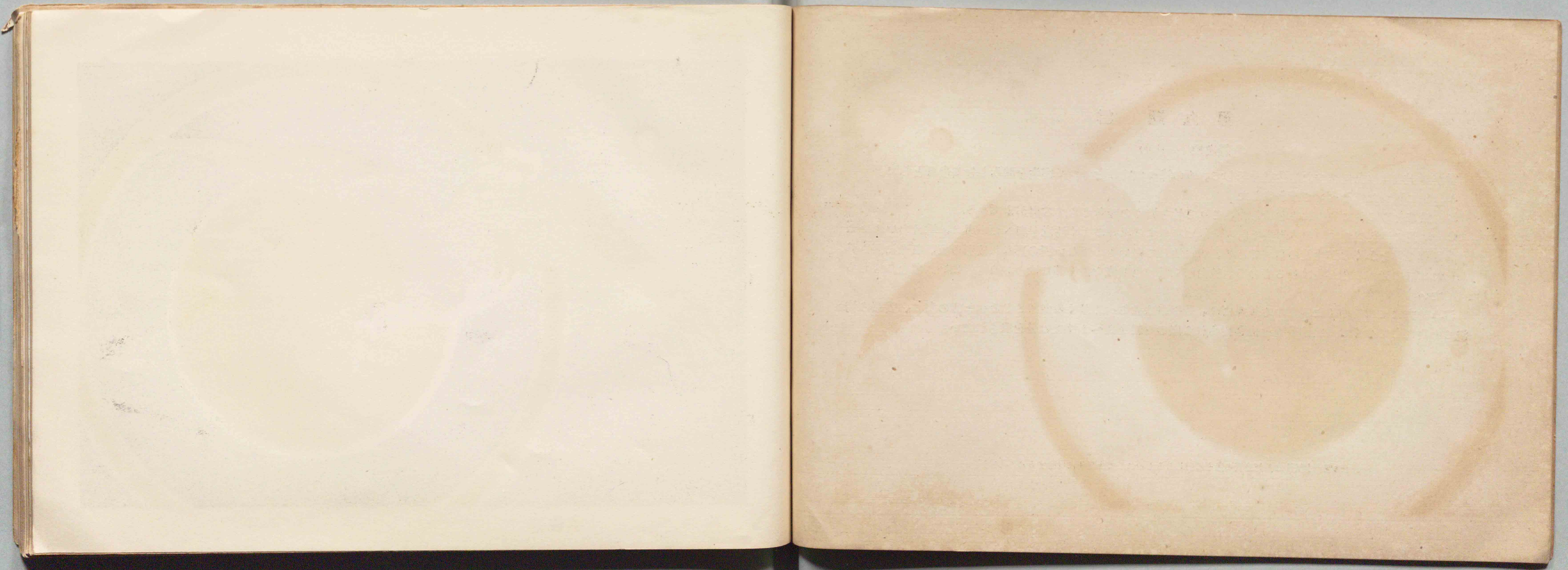
貳. 8. B.

20/16



貳. 8. C.





第九題 雪

A 羅漢柏 B 竹 C 殘雪

雪が樹上或は地上に積つた寫生畫を示して、雪の降つた時期を待つて寫生を試みしむる參考とした。

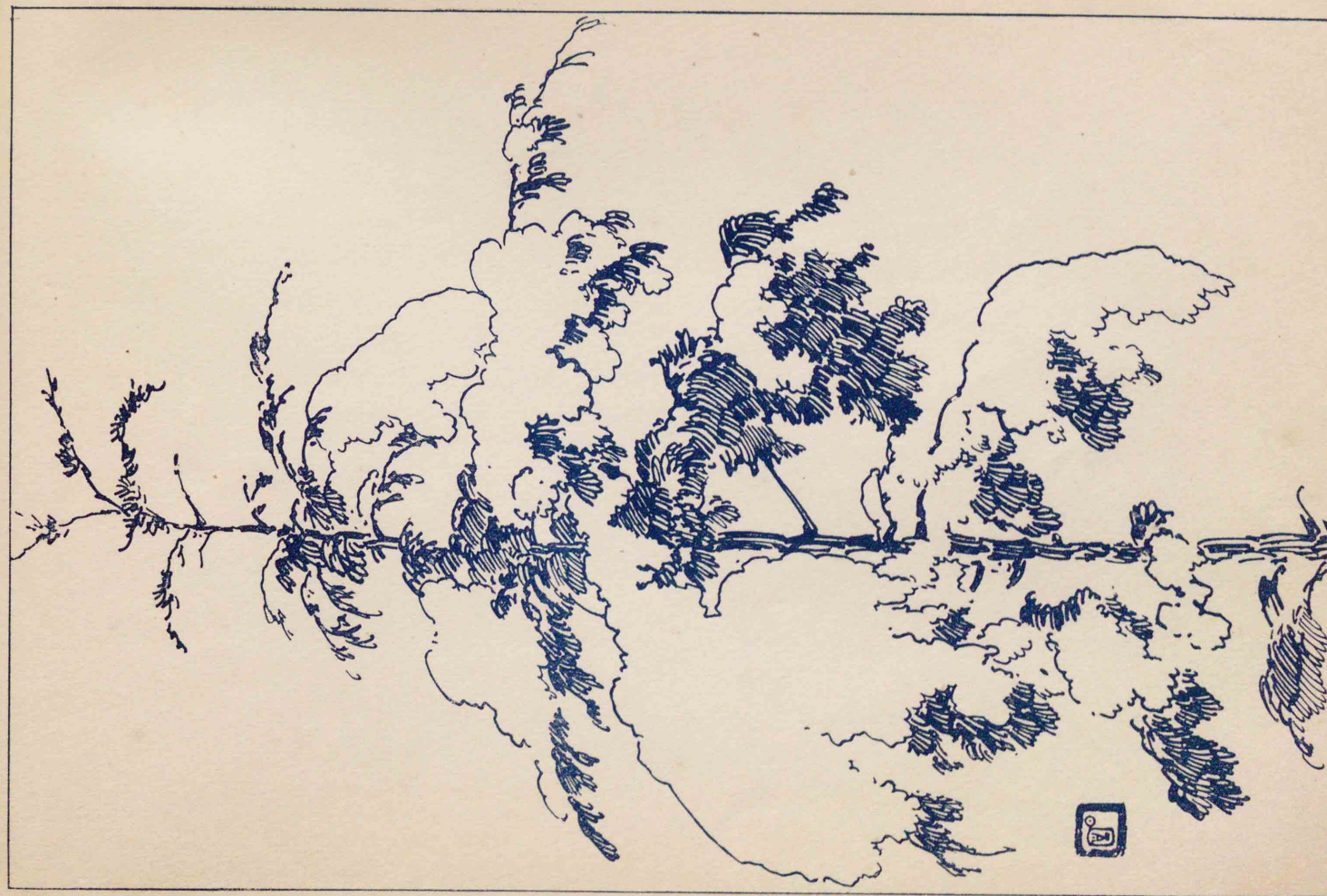
A 柏に積つた雪をペンで描き表した。

B 鉛筆を以て竹に積つた雪を示した、これで竹を描くの參考ともする事が出來やう。

C 林間に消え残つた雪の水彩畫である。雪に着色する場合によく注意を與へたい事は、雪は白いといふ頭腦で雪をかくのが生徒の常習である、雪は決して白いものでない樹の影なれば影の色、日光に照されれば日の光りの色が現はれるもので、純白即ち紙の色其儘で置く譯にはゆかぬものといふ事を知らしめたい。

温き地方にて雪を描くに困難なる場合には、教授者は成るべく多くの參考となるべき雪の畫と、實際の情況とを説明して少くとも裝飾畫等を描き得られる迄の材料を與へるまでの勞を取られたい。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)



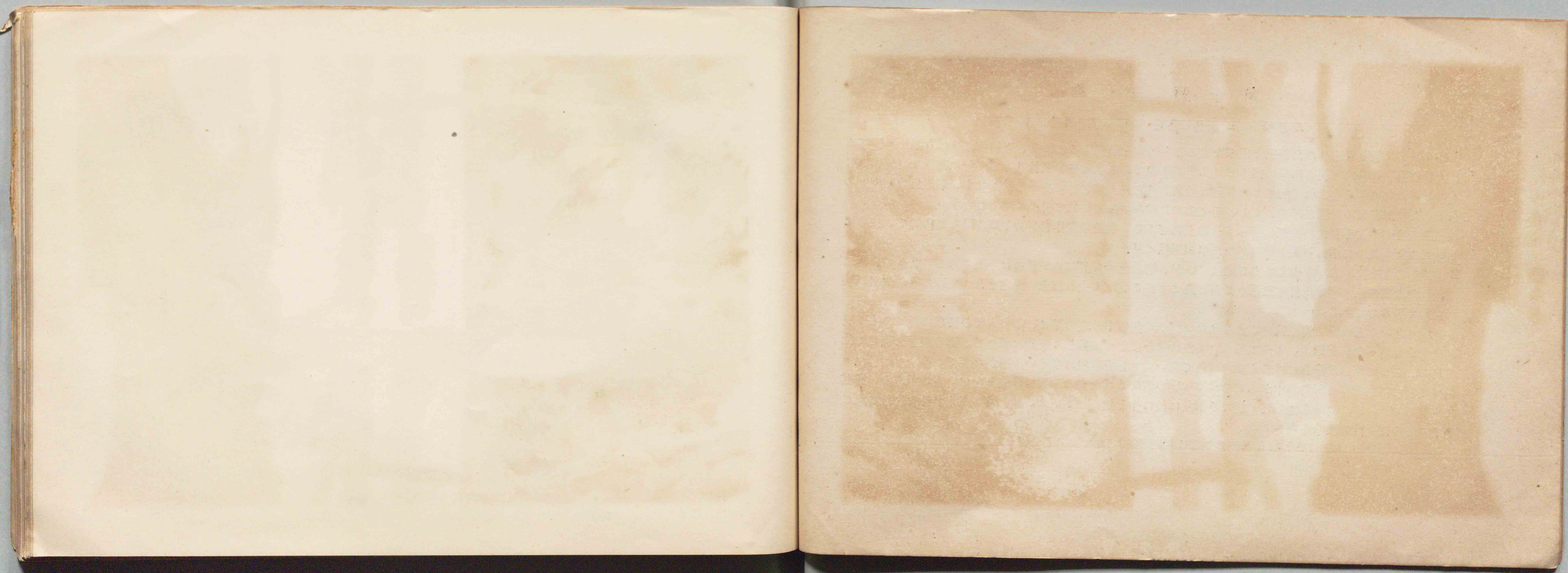


貳 九 . B .



貳. 9. C.





第十題 器物

A 埴輪 B 玩具の駱駝 C 玩具の牛と人形

人物や獸類の最も省略された輪廓で出来たもの即ち輪廓を描寫するには、詳細の部分に着眼せぬ様極めて、大體の姿勢、骨格を誤らぬ様に描くといふ事が必要である、本題の教材其ものが既に其意味で製作されたものである。斯う省略されて居ても、姿勢と骨格、並に見た感じには少しの缺點なく、寧ろ趣味を唆るのである。これが寫眞の詳細な印畫よりも、手に成つた繪畫の趣味に於て優つた譯であらうか。

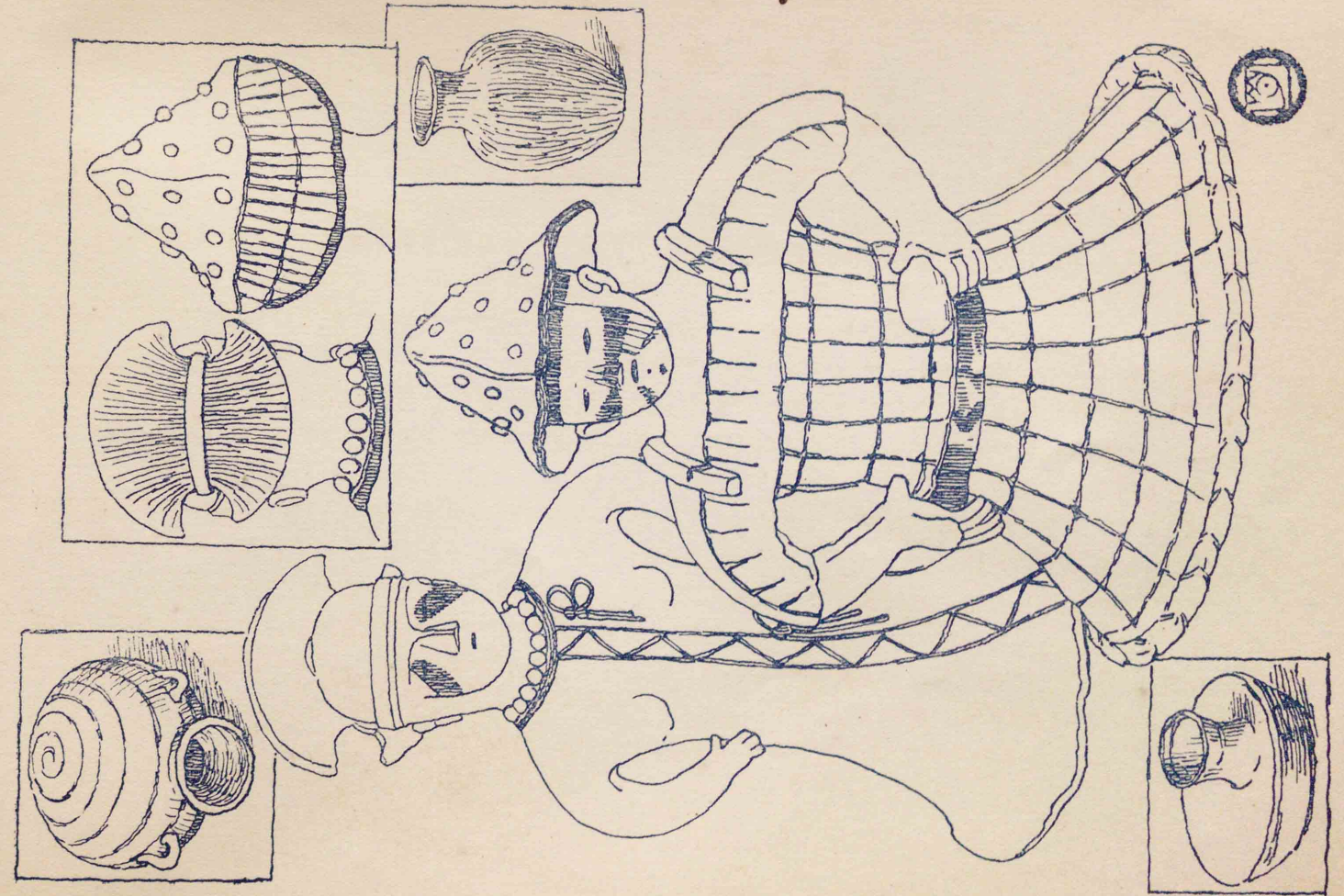
A 謂ふまでもなく古代の殉死に替へられた土偶である。當時の製作者が物を觀る事の概括的で、徒らに細部に立ち入つた小刀細工を仕なかつた事が歴然と見える。

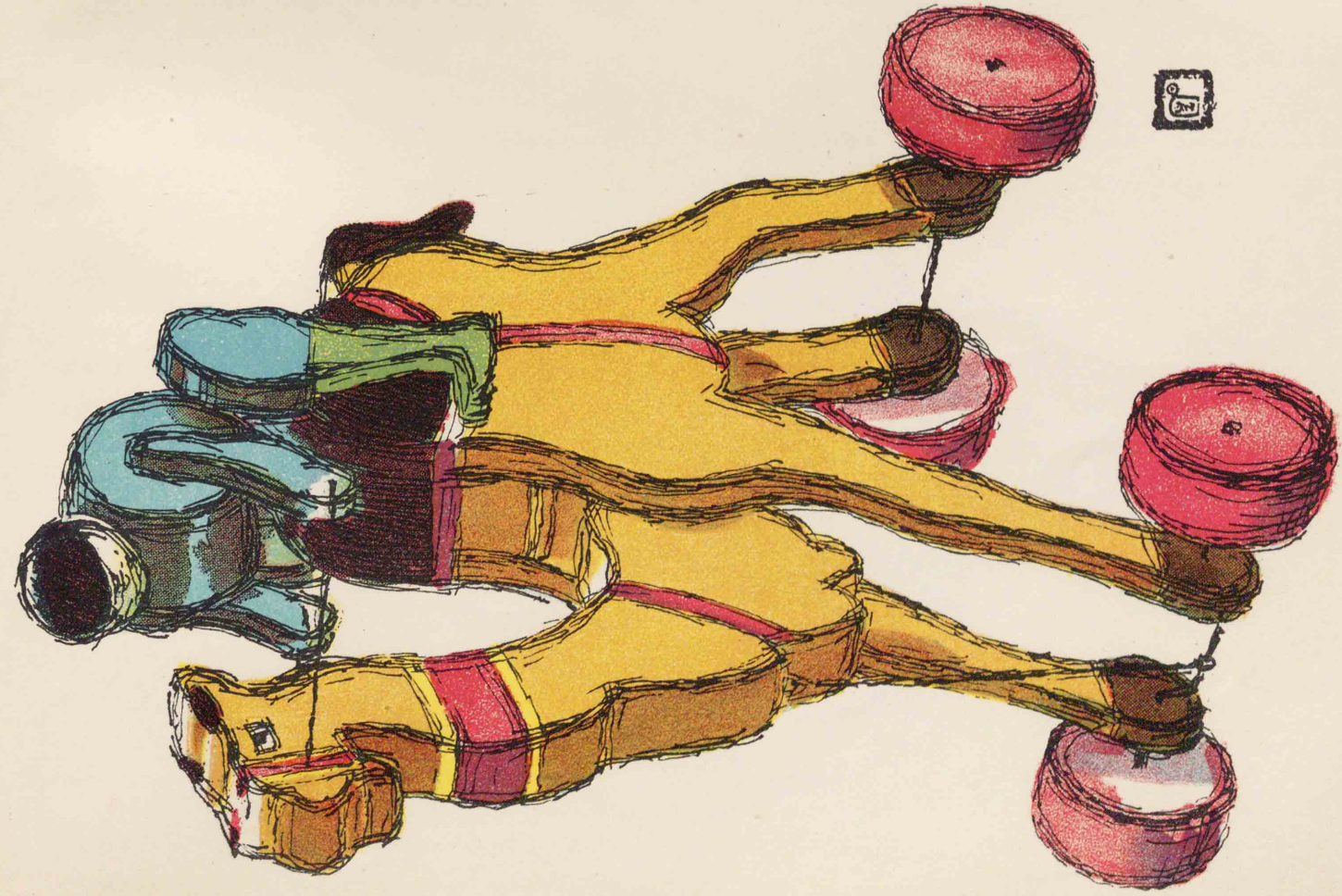
B 製作の意味に於てA と少しも異なる處はないが、唯着色が玩具なるが爲めに單調である。兒童と文明に後れた人民の色の嗜好は皆な三原色と白と黒とである、即ち夫れ以上の混色を味ふ丈けの色の知識が缺乏して居るのである。

C 玩具といふ上に於て前の教材と大差はないが、唯後の牛の斑の黒と、前の人物の裝束の黒との描き現はし方を教へたいと思ふ、すべて黒といふ色は場合によつて甚しく強烈に感じて、畫の調子を損じて仕舞う、よつて斯様な場合には多く他の暗色で黒い感じを描き現はすといふ事が必要である。

教材としてはあらゆる玩具の中から成るべく輪廓の省略されたものを選べば随分面白いものが有る、唯其間に本題の C の様に前の人物が天神様なるが故に後に牛を選んだといふ、様な或る意味を持たせれば更に寫生するものに一段の興味を興へる。

(注意 本紙片は教師諸賢の參考に附したるものにして生徒用には附するにあらず)





貳. 10. B.





貳. 10. C.

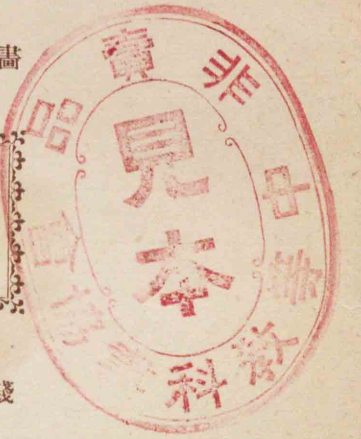
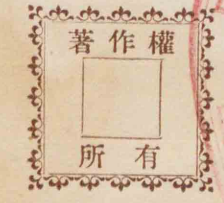


大正十年十二月二十日 文部省檢定濟 中學校圖書科

大正十年十月二十九日 印刷
大正十年十一月一日 發行
大正十年十二月二十二日 訂正再版印刷
大正十年十二月二十五日 訂正再版發行

中等圖書

著 作 者 岡 田 秀
發 行 兼 著 株 式 興 文 社
代 表 者 鹿 島 長 次 郎
東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地

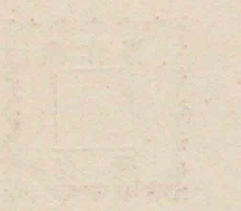


定價各金五拾錢
大正十一年度臨時
定價金九十五錢

發行所 株 式 興 文 社
東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地

中華民國二十二年十月二十二日

第一卷 第十期
中華民國二十二年十月二十二日
中華民國二十二年十月二十二日
中華民國二十二年十月二十二日



本報地址：上海
電話：二二二二
零售每份五分
廣告費另議

總發行所：上海
電話：二二二二
零售每份五分
廣告費另議

